

あかまえ 3
赤前Ⅲ遺跡
あかまえ 4 はちまい た
赤前Ⅳ八枚田遺跡

— 市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

赤前Ⅲ遺跡

赤前Ⅳ八枚田遺跡

－市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

序

本州最東端に位置する岩手県宮古市には現在のところ 680 か所の遺跡が確認されています。私たちは先人が残した遺跡を保護することが市民へ課せられた責務であると考えております。

一方で住宅や道路を始めとする土地開発は現代において快適な生活を送るためには不可欠な行為であります。その中で遺跡における開発行為については協議、調整を重ねることにより遺跡の保存と土地開発が調和できるよう努めておりますが、やむを得ず失われる遺跡については記録保存を目的とする発掘調査を行っているところであります。

本書は宮古市が事業主体者とする赤前上下線道路整備事業に伴い実施された発掘調査の報告です。東日本大震災大津波により赤前地区の避難道路として整備された場所において縄文時代と平安時代の遺構と遺物が発掘されました。中でも縄文時代前期と平安時代の竪穴住居跡が検出されたことが主な成果になります。




本書が広く活用され、考古学や地域の歴史研究に寄与し、埋蔵文化財に対する関心が高まる事を切に希望いたします。

最後となりましたが、今回の発掘調査と報告書作成に御協力賜りました派遣職員の方々、関係機関の皆様に衷心より感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃 二

例 言

1. 本書は宮古市赤前地区に所在した赤前Ⅲ遺跡及び赤前Ⅳ八枚田遺跡についての発掘調査報告書である。
2. この調査は、宮古市を事業主体とする市道赤前上下線道路整備事業に伴う記録保存を目的とした緊急事前調査として実施されたものである。
3. 調査主体は宮古市教育委員会である。発掘調査は酒井（名古屋市派遣職員）、江口が担当した。本書の執筆・編集は江口が担当し、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標は公共座標 X 系を基準としたものである。座標値は $X = -45,000\text{m}$ 、 $Y = 96,000\text{m}$ を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するために R を冠した。
5. レベル数値は標高値である。
6. 土層観察及び文中の色調表記にあたっては『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 編著1990年度版）を使用した。
7. 野外調査における空中写真撮影にあたっては東邦航空株式会社に委託した。
8. 図版中の記号・略号の表記およびスクリーントーンを表示は以下のとおりである。
P…土器 S…石 …焼土 …繊維混入の縄文土器
…磨石の使用面
9. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目 次

序

例言

目次 図版目次 表目次 写真図版目次

1 調査経過	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 調査概要	1
(3) 調査体制	1
(4) 宮古市の位置と環境	2
(5) 赤前Ⅲ・Ⅳ遺跡と周辺の遺跡	3
2 調査内容	14
(1) 調査地点の場所と基本土層	14
(2) 遺構と遺物	14
(3) 調査のまとめ	34
参考文献	
写真図版	35
報告書抄録	47

図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第14図	3号竪穴住居跡焼土平面図・断面図	20
第2図	遺跡周辺地形図	4	第15図	4号竪穴住居跡平面図・断面図	21
第3図	周辺の遺跡分布図	4	第16図	5号竪穴住居跡平面図・断面図	22
第4図	試掘・本調査区全体図	5	第17図	5号竪穴住居跡カマド平面図・断面図	23
第5図	本調査全体図	7	第18図	A区土坑平面図	24
第6図	A区全体図・断面図	9	第19図	A区・B区土坑平面図・断面図	25
第7図	B区全体図・断面図	11	第20図	SX-01、C区焼土平面図・断面図	26
第8図	C区全体図・断面図	13	第21図	1～3号、5号竪穴住居跡出土遺物	28
第9図	1号竪穴住居跡平面図・断面図	15	第22図	4号竪穴住居跡出土遺物	30
第10図	1号竪穴住居跡カマド平面図・断面図	16	第23図	土坑・遺構外出土遺物(1)	31
第11図	2号竪穴住居跡平面図・断面図	17	第24図	土坑・遺構外出土遺物(2)	32
第12図	2号竪穴住居跡カマド平面図・断面図	18	第25図	土坑・遺構外出土遺物(3)	33
第13図	3号竪穴住居跡平面図・断面図	19			

表目次

第1表	土坑、焼土遺構、性格不明遺構計測表(1)	27
-----	----------------------	----

写真図版目次

写真1	赤前地区航空写真	37	写真17	3号竪穴住居跡完掘	42
写真2	調査区A・B区航空写真	37	写真18	3号竪穴住居跡セクション	42
写真3	A区近景(1)	38	写真19	3号竪穴住居跡焼土検出状況(1)	42
写真4	A区近景(2)	38	写真20	3号竪穴住居跡焼土検出状況(2)	42
写真5	B区近景	39	写真21	3号竪穴住居跡炭化材出土状況	42
写真6	C区近景	39	写真22	4号竪穴住居跡完掘	43
写真7	1号竪穴住居跡完掘	40	写真23	4号竪穴住居跡セクション	43
写真8	1号竪穴住居跡セクション	40	写真24	5号竪穴住居跡完掘(1)	44
写真9	1号竪穴住居跡カマド完掘	40	写真25	5号竪穴住居跡完掘(2)	44
写真10	1号竪穴住居跡カマド検出状況	40	写真26	5号竪穴住居跡カマドセクション(1)	44
写真11	1号竪穴住居跡遺物出土状況	40	写真27	5号竪穴住居跡カマドセクション(2)	44
写真12	2号竪穴住居跡完掘	41	写真28	5号竪穴住居跡カマド完掘	44
写真13	2号竪穴住居跡セクション	41	写真29	出土遺物(1)	45
写真14	2号竪穴住居跡煙道完掘	41	写真30	出土遺物(2)	45
写真15	2号竪穴住居跡煙道セクション	41	写真31	出土遺物(3)	46
写真16	2号竪穴住居跡カマド完掘	41	写真32	出土遺物(4)	46

1 調査経過

(1) 調査に至る経過

赤前Ⅲ遺跡及び赤前Ⅳ八枚田遺跡発掘調査は宮古市赤前において実施された市道赤前上下線道路整備事業に伴う緊急の発掘調査である。宮古市教育委員会（以下、市教委）は平成26年4月、開発主体者である市道路整備部建設課（以下、建設課）から東日本大震災大津波により被災した赤前地区において避難道路の計画を知ることとなり、同年8月に当該地の現地踏査を行い、事前に試掘調査が必要であることを建設課に伝えた。双方の協議の結果、試掘調査を実施することとなり、同年10月に試掘調査に着手した。試掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡、時代不明の土坑を確認したことから埋蔵文化財の保護措置についての協議を建設課と行ったが、事業用地に変更がないことから発掘調査を実施することとなり、市教委では発掘調査の対象地の東半部にあたる赤前Ⅳ八枚田遺跡の発掘調査を9月1日から着手したものである。

なお、発掘調査の対象地のうち、西半部にあたる赤前Ⅲ遺跡の区域については、平成27年7月31日付けで建設課と公益財団法人岩手県文化振興事業団と間で委託契約を締結し、建設課は発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団に委託している。

(2) 調査概要

発掘調査地点	宮古市赤前第11地割地内
調査原因	市道赤前上下線道路整備事業
発掘調査面積	1,676㎡（対象面積4,170㎡）
発掘調査期間	平成27年9月1日～平成27年12月4日
資料整理期間	平成27年12月7日～平成28年3月25日 平成28年4月7日～平成30年3月30日

(3) 調査体制

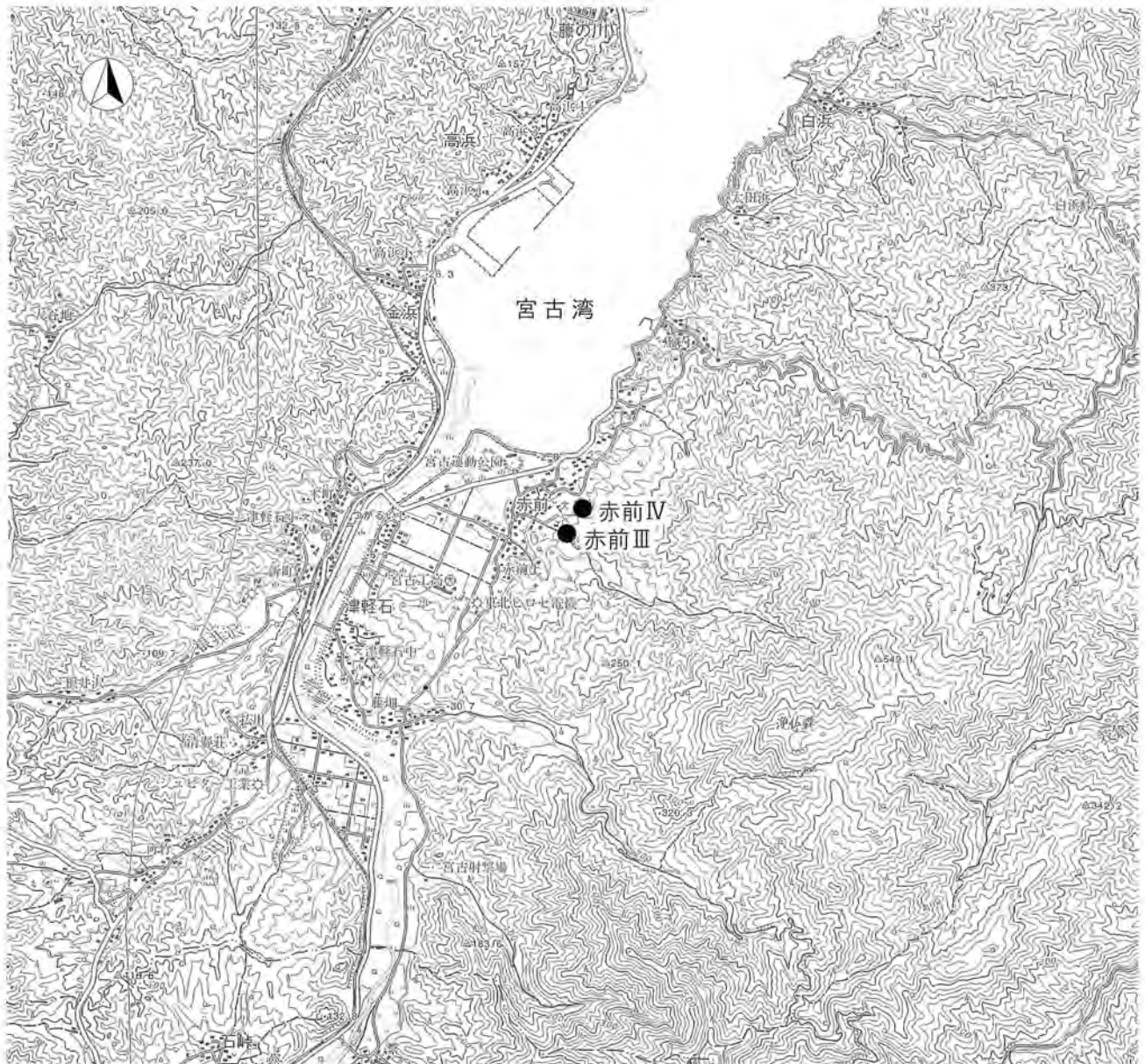
調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二
調査統括	竹下将男	宮古市教育委員会	文化課長（平成26年度） 高橋憲太郎 “ “（平成27年度～）
事務担当	高橋憲太郎	“	文化課副主幹（平成26年度） 鎌田祐二 “ 文化課副主幹（平成27年度～）
調査員	安原 誠	“	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	“	文化課主任文化財調査員（平成26年度～27年度）
	江口邦泰	“	文化課主任文化財調査員（調査・資料整理担当）
	酒井将史	“	文化課文化財調査員（平成26年度 調査担当）
	千葉剛史	“	文化課文化財調査員（平成26年度～27年度）
	阿部 豊	“	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	前川友宏	“	文化課埋蔵文化財調査員
	赤沼みちる	“	文化課埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員 石崎衛司、大下義文、菅野真美、小成鷹介、小林功行、小松義一、佐々木孝一、佐々木亨、鳥取光己、鳥居義文、中屋鋪政富、野崎秀人、三河義郎、山口忠夫、山根清美、山屋秋英
資料整理作業員 菅野真美、佐々木亨、佐々木ゆかり、野崎秀人

(4) 宮古市の位置と環境 (第1図、第2図)

岩手県宮古市は三陸沿岸中部に位置し、北は岩泉町、西は盛岡市に隣接している。市の東端部に位置する鮭ヶ崎は本州最東端として知られている。平成17年には旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併し、平成22年には旧川井村が編入している。平成23年3月には東日本大震災大津波で甚大な被害を受け、現在は復興事業がすすめられている。

宮古市の沿岸部は隆起海岸が続き、海食により形成された自然景観は観光地として優れ、浄土ヶ浜



第1図 遺跡位置図 (S=1:50,000)

は国の名勝に、三王岩は県の天然記念物に指定されている。市内を流れる河川は市の中央部を流れる閉伊川、宮古湾最奥部へ流れる津軽石川などがあり、河川流域の樹皮状に開析された丘陵地には数多くの遺跡が立地している。市内の地形は山地と丘陵地で占められている。山地は川井地区では標高1,000m級の大起伏山地が広がっているものの、山地帯の多くは重茂半島にある月山(455m)や十二神山(731m)を代表とする小起伏山地からなる。丘陵地は閉伊川流域の千徳丘陵や八木沢丘陵、津軽石川流域の豊間根丘陵、隆起海岸により形成され、小河川が流れて開析された小本丘陵などがある。小本丘陵は市の北部に位置し、国の史跡である崎山貝塚を代表とする大中規模の遺跡が多数所在している。

(5) 赤前Ⅲ・Ⅳ遺跡と周辺の遺跡(第3図)

赤前Ⅲ遺跡及び赤前Ⅳ八枚田遺跡は赤前小学校に隣接する遺跡である。赤前地区の遺跡は海岸段丘の標高約20m～50mの山裾にあたる緩斜面に立地し、海岸沿いを連続して分布しているため、宅地化、道路整備に伴う発掘調査が比較的多く実施されている。当該遺跡の他に、赤前Ⅰ牛子沢遺跡、赤前Ⅴ柳沢遺跡、赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡、小堀内Ⅲ遺跡において発掘調査が行われている。

赤前Ⅲ遺跡では宅地造成に伴う発掘調査が昭和57年に実施され、平安時代の竪穴住居跡が2棟、時期不明の竪穴建物跡1棟、土坑2基を検出し、縄文時代中期土器、石器、平安時代の土師器、須恵器、鉄製品、砥石、羽口、鉄滓、天目茶碗が出土している。震災後においては防災集団移転促進事業関連と当事業の公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター委託による発掘調査が実施され、赤前小学校より標高の低い斜面において、縄文時代の住居跡を含む竪穴建物23棟、陥し穴11基、貯蔵穴12基、古代の住居跡、鉄生産工房を含む竪穴建物41棟、円形周溝1基、中近世の掘立柱建物6棟、墓坑5基などを、赤前小学校より標高の高い斜面において、縄文時代中期の竪穴住居跡1棟、陥し穴1基、貯蔵穴2基、古代の竪穴住居跡1棟、炭窯1基、江戸時代の墓坑70基を検出し、当遺跡が縄文時代、平安時代を主とする複合遺跡であることが明らかとなった。

赤前Ⅳ八枚田遺跡では昭和54年に現在の赤前小学校校舎建設に伴い発掘調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡3棟、縄文時代早期の遺物を含む遺物包含層を検出している。平成7年と9年には当市水産課津軽石環境整備事業による道路建設工事に伴う発掘調査が実施され、縄文時代の竪穴住居跡2棟、弥生時代の竪穴住居跡2棟、奈良時代の竪穴住居跡2棟、平安時代の竪穴住居跡9棟、製鉄炉や鍛冶炉などの鉄生産関連遺構を検出し、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器、石製品、鉄製品、鉄滓などが出土している。

赤前Ⅲ遺跡の南には中世の城館である赤前館が隣接している。調査歴はないが、築城年代は南北朝時代とされ、主郭、二の郭、腰郭、砦からなる城館と考えられている。赤前館の南には赤前Ⅰ牛子沢遺跡が隣接し、平成4年の発掘調査により土坑を検出し、縄文時代前期・中期土器、石器、中世陶器、青磁が出土し、中世の陶磁器については隣接する赤前館との関連が指摘されている。

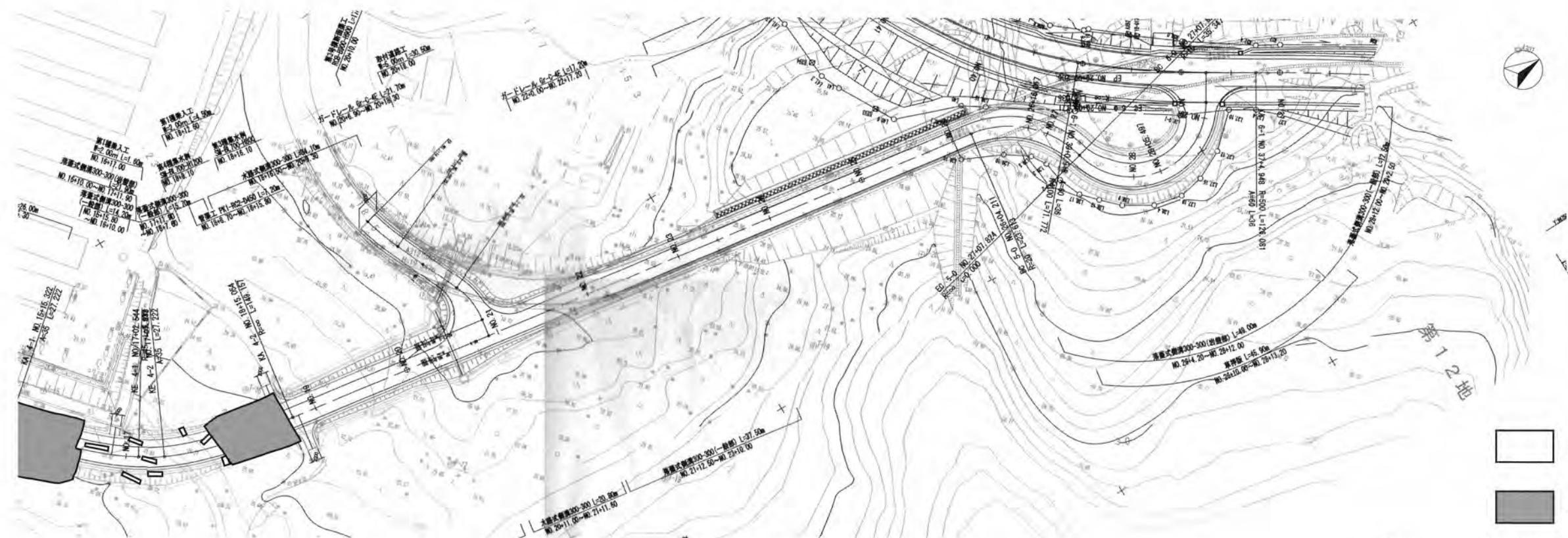
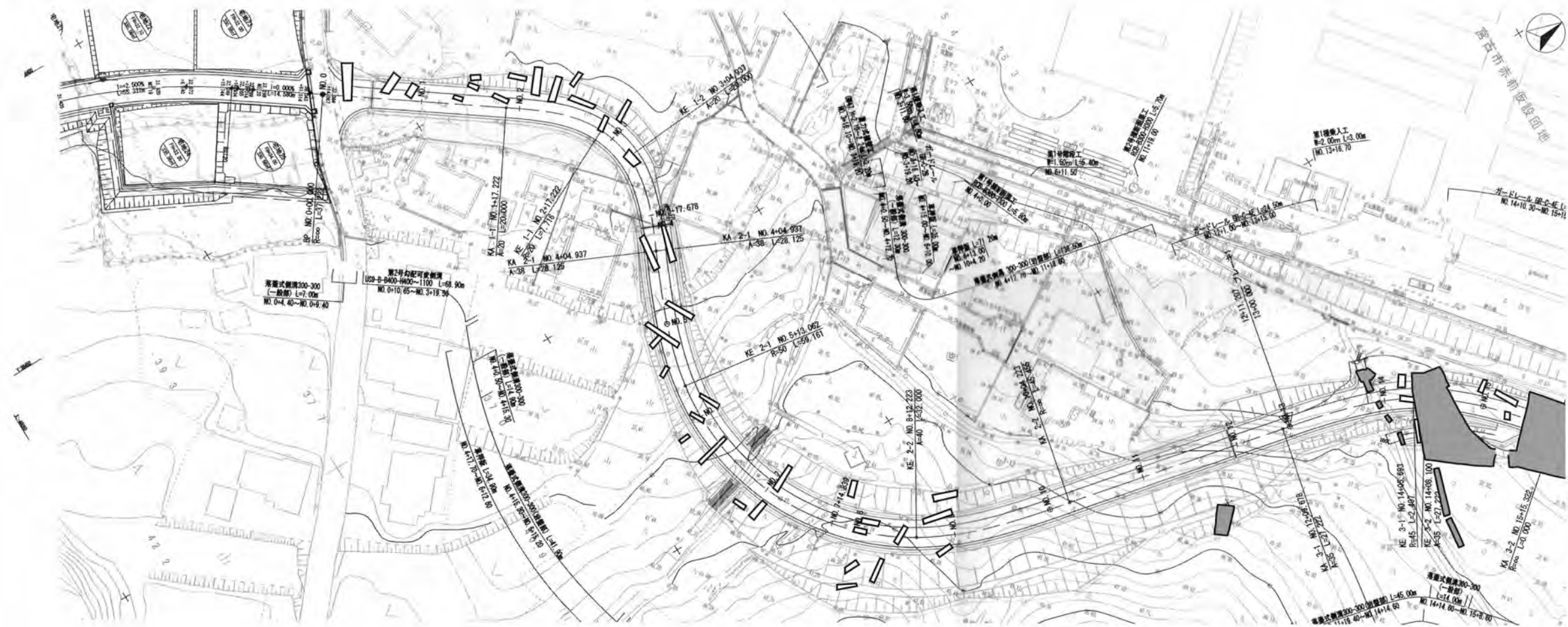
赤前Ⅳ八枚田遺跡の北には赤前Ⅴ柳沢遺跡、赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡、小堀内Ⅲ遺跡と続いている。いずれも津軽石環境整備事業による道路建設工事に伴い発掘調査が実施され、赤前Ⅴ柳沢遺跡ではカマドを伴う古代の竪穴住居跡2棟、土坑、縄文時代の遺物包含層などを検出している。赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡では遺構は検出されていないが、縄文土器、土師器、須恵器、近世磁器が出土している。小堀内Ⅲ遺跡では奈良時代の竪穴住居跡3棟を含む古代の竪穴住居跡5棟、製鉄炉や鍛冶炉などの鉄生産関連遺構を検出し土師器、須恵器、土製紡錘車、羽口、鉄製品、鉄滓などが出土している。



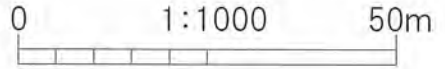
第2図 遺跡周辺地形図 (S=1:50,000)



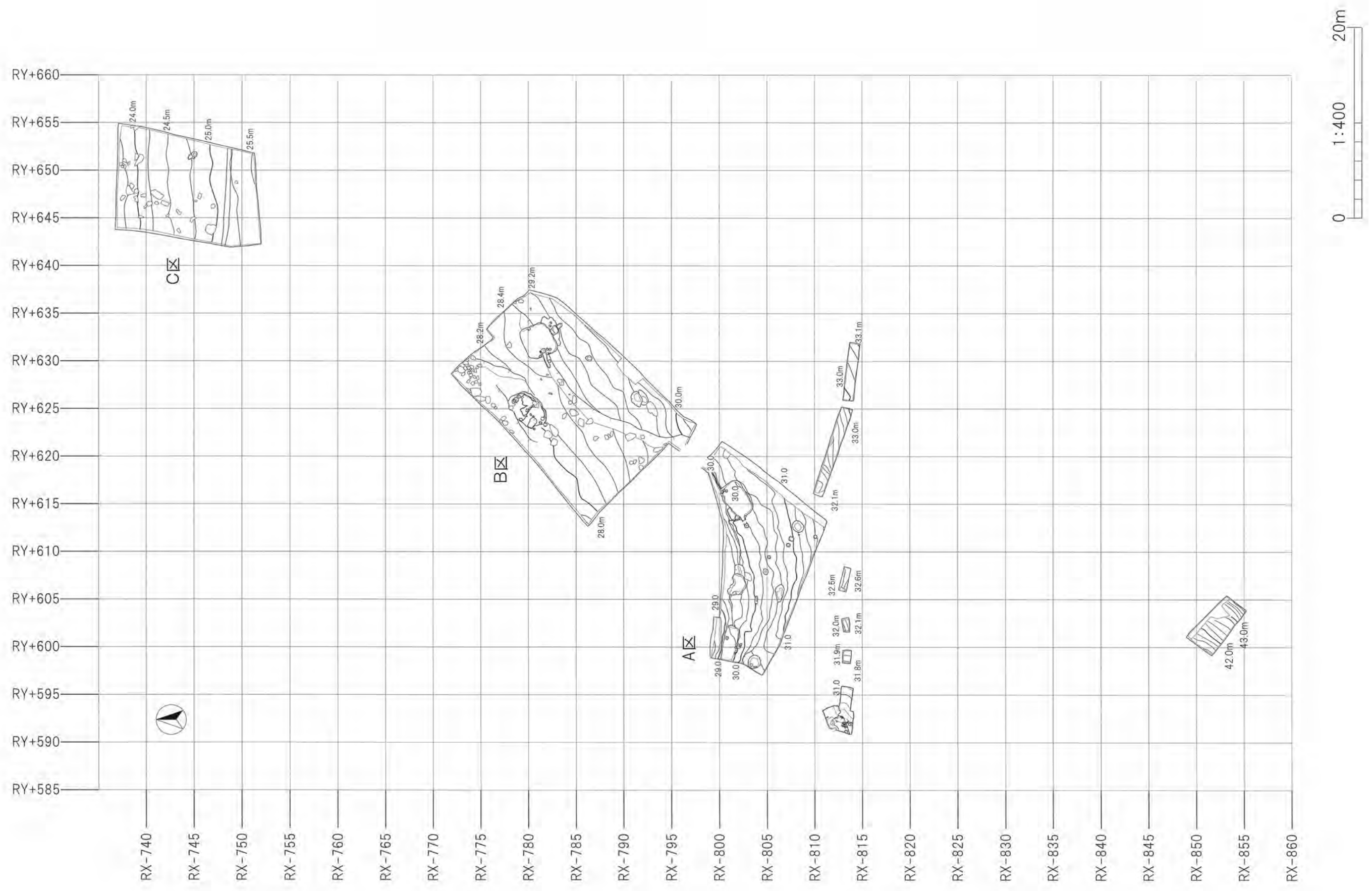
第3図 周辺の遺跡分布図 (S=1:25,000)



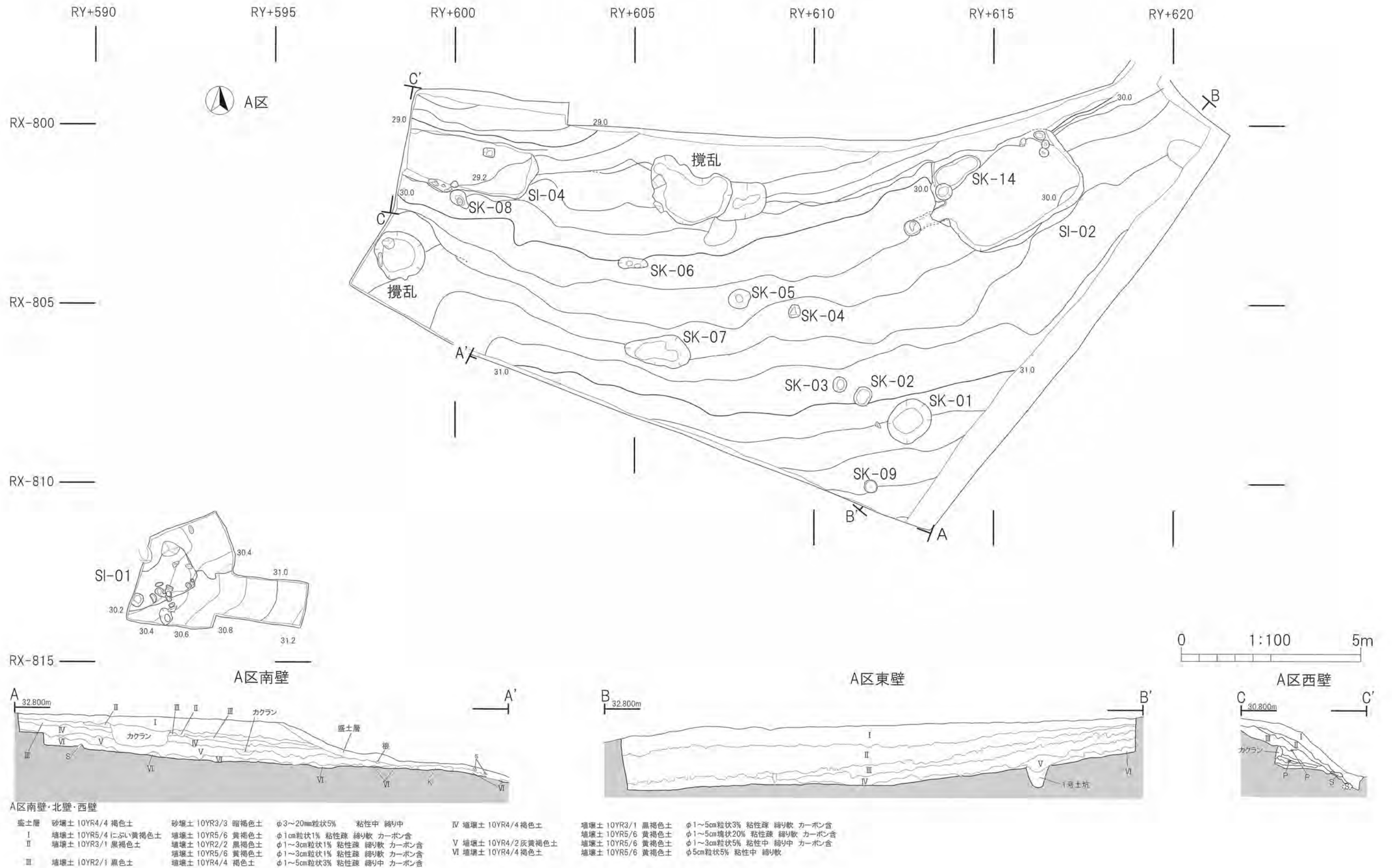
- 試掘調査区
- 本調査区



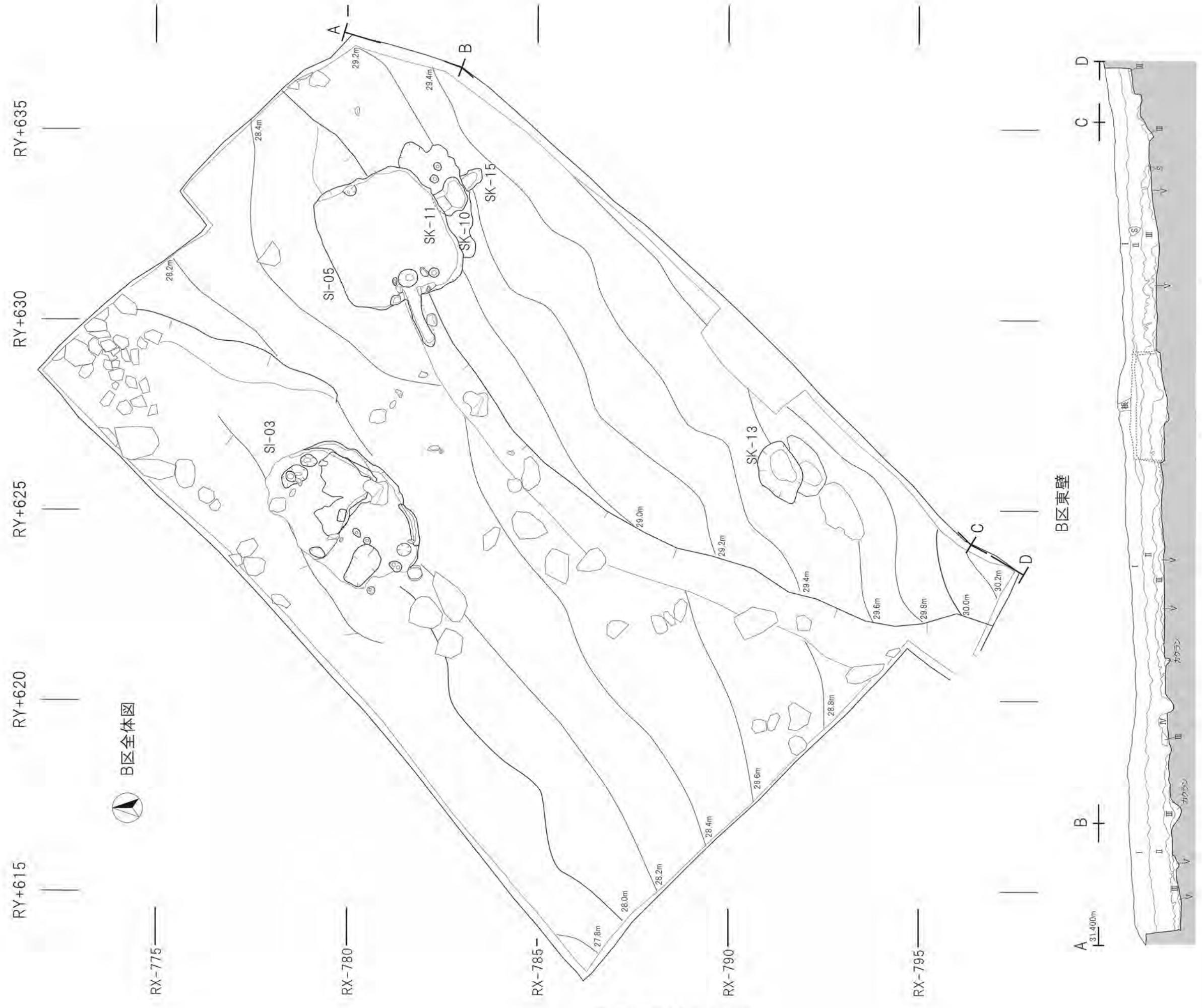
第4図 試掘・本調査区全体図



第5図 本調査全体図



第6図 A区全体図・断面図



第7図 B区全体図・断面図

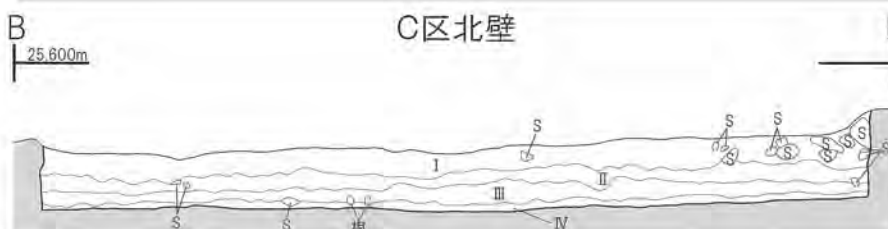
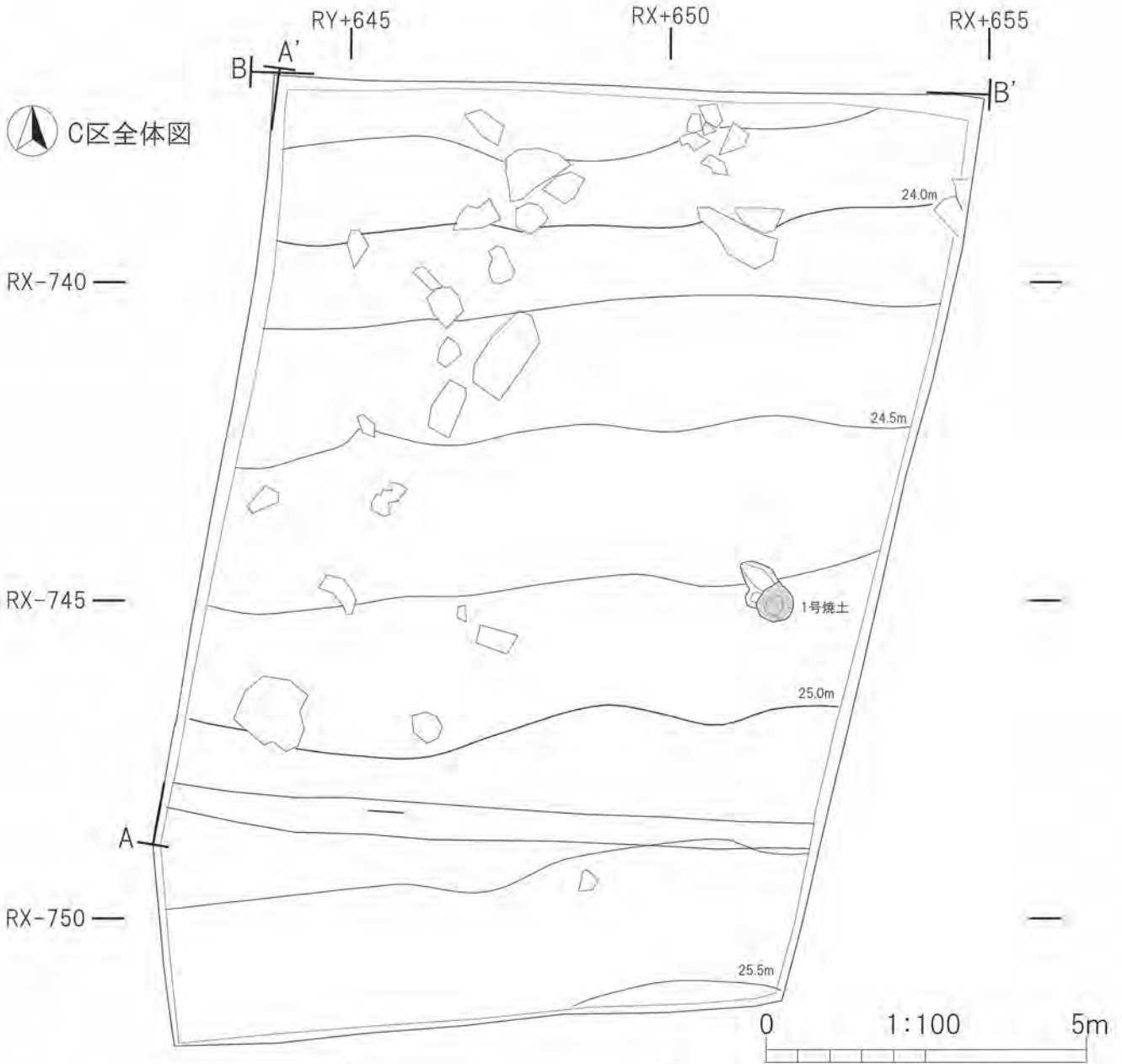
B区東壁

- I A区南壁・西壁 1層と同一
- II A区南壁・西壁 2層と同一
- III A区南壁・西壁 3層と同一
- IV 砂壤土 7.5YR2/3 極暗褐色土
- V 砂壤土 10YR4/6 褐色土

- 砂壤土 10YR4/4 褐色土
- 砂壤土 7.5YR3/3 暗褐色土
- 砂壤土 7.5YR2/3 極暗褐色土
- 砂壤土 10YR4/6 褐色土

- 粘性中 締り中
- 粘性中 締り中





C区西壁・北壁

I	埴壤土 10YR2/1 黒色土	混入土なし	粘性疎 締り軟	カーボン含
II	埴壤土 10YR3/1 黒褐色土	混入土なし	粘性疎 締り硬	
III	埴壤土 10YR2/1 黒色土	混入土なし	粘性疎 締り中	
IV	埴壤土 10YR4/2 灰黄褐色土	埴壤土 10YR6/6 明黄褐色土 φ1~5cm粒状1%	粘性密 締り硬	

第8図 C区全体図・断面図

2 調査内容

(1) 調査地点の場所と基本土層（第4図～第8図）

試掘調査では第4図のようにトレンチを設定した。事業用地の東半部にあたる当発掘調査区は赤前小学校の裏に位置し、赤前IV八枚田遺跡内に該当する。発掘調査区は南からA区、B区、C区と呼称する。A区では試掘調査時に調査ができなかった部分について追加のトレンチ調査を実施した。基本土層は以下の通りである。

A区、B区

盛土層 褐色土でA区の南部、後世の攪乱後に盛り土された土層である。

I層 にぶい黄褐色土を主体とする。表土層である。

II層 黒褐色土を主体とする。

III層 黒色土を主体とする。

IV層 褐色土を主体とする。A区にのみ堆積している。

V層 灰黄褐色土を主体とする。A区にのみ堆積している。

VI層 褐色土を主体とする。地山との漸移層である。

C区

I層 黒色土を主体とする。表土層である。

II層 黒褐色土を主体とする。

III層 黒色土を主体とする。焼土遺構が検出されている。

IV層 灰黄褐色土を主体とする。地山との漸移層である。

(2) 遺構と遺物

検出された遺構は竪穴住居跡5棟、土坑15基、性格不明の遺構1基、焼土遺構1基である。

・竪穴住居跡（SI-01～05）

1号竪穴住居跡（SI-01 第9図、第10図、第21図1、2）

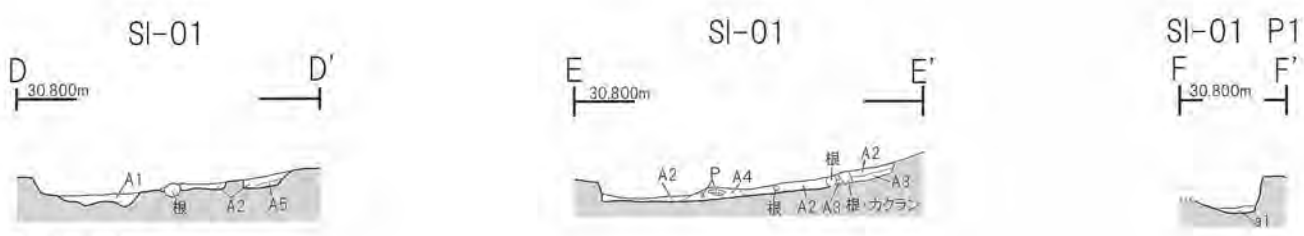
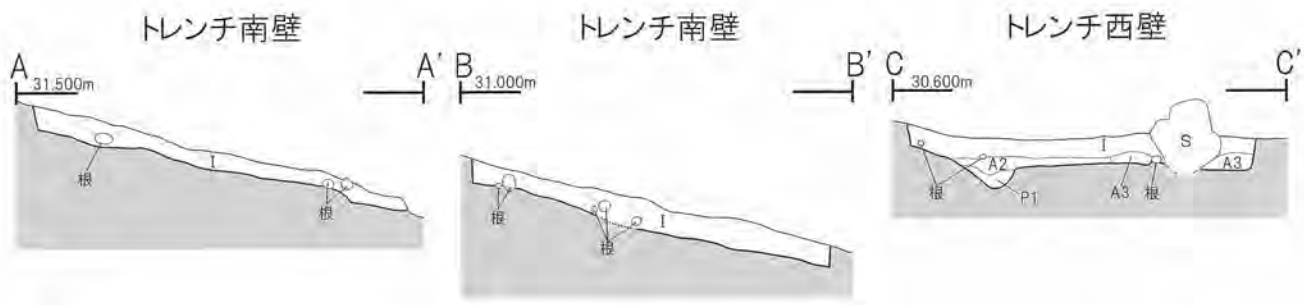
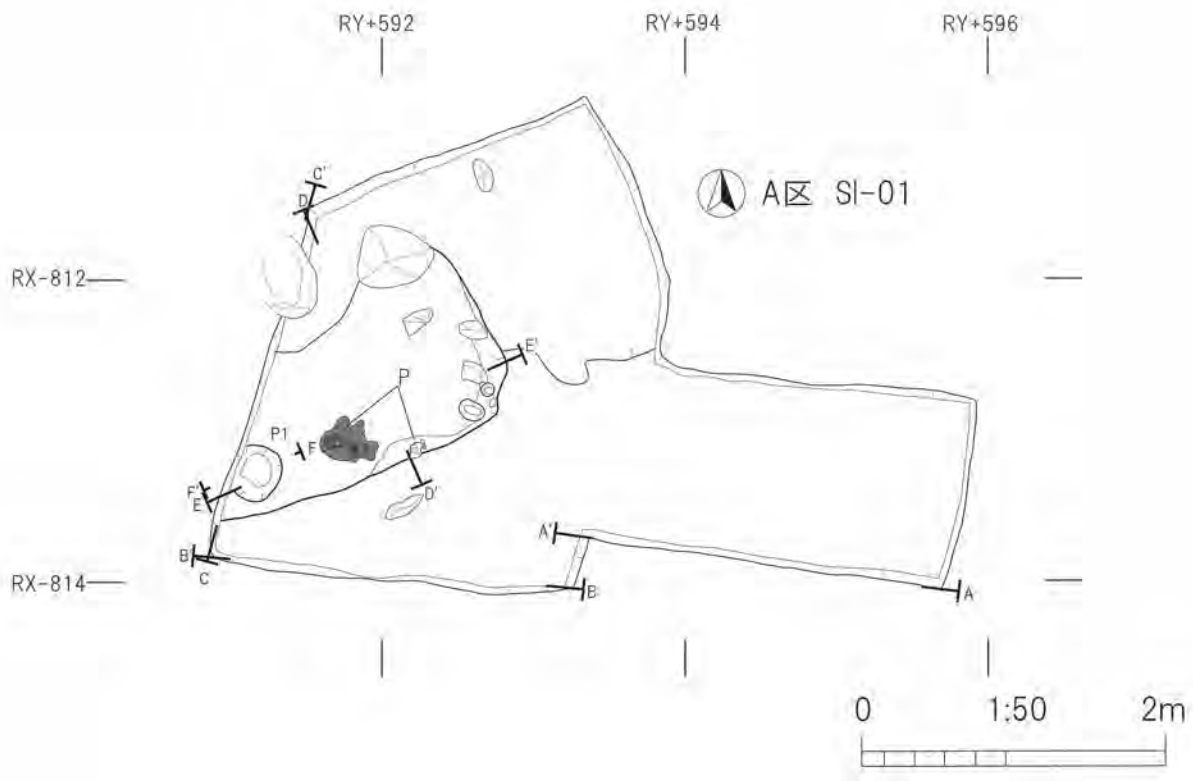
A区の飛び地で検出された。人が通る道として利用されていたため試掘調査は未調査となっていたが、本調査時のトレンチ調査にて表土を除去したところ、当遺構が確認された。残存状況は極めて悪く検出面から5cmの深さで床面に到達し、床面も部分的にしか残存していなかった。また、遺構の範囲は調査区外へ続き全容は不明である。埋土は5層に分層される。床面は概ね平坦である。床面の壁際には柱穴と考えられるピットが1基検出され、南壁中央部にはカマドと考えられる焼土及び袖石の抜き取り痕が確認された。焼土は不整形に確認され、長軸64cm、短軸49cmを測り、焼土の厚さは6cmを測る。なお、煙道はすでに掘削され確認されなかった。

出土遺物は土師器の坏と甕の破片である。第21図1は土師器坏の破片である。推定の口径は15.5cmで、ロクロ挽きである。胎土に金雲母を含んでいる。第21図2は土師器甕の破片である。口縁部はヨコナデ、胴部はナデにより整形している。平安時代の所産と考えられる。

遺構の帰属時期は出土遺物から平安時代である。

2号竪穴住居跡（SI-02 第11図、第12図、第21図3、4）

A区北壁付近で検出された。基本土層VI層を掘り込んで構築している。北部は既に1mほど掘削されていたため確認されなかった。カマドを付帯する住居跡で、西壁に煙出しピットが掘り込まれている。



南壁・西壁
I A区 南壁・東壁

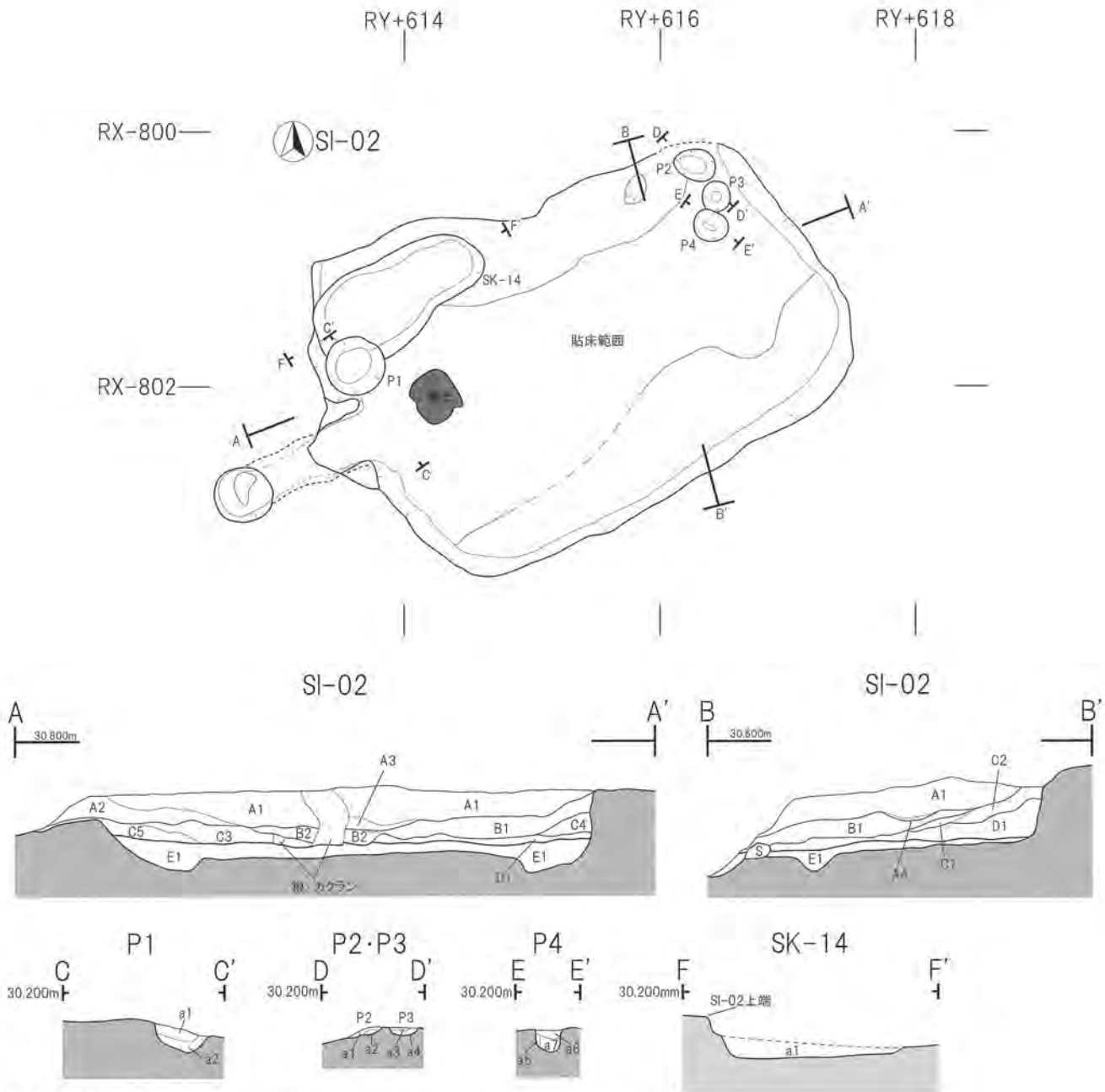
SI-01

A1	砂質埴土	10YR4/4	褐色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ1~3mm粒状1%	粘性中	締り中	攪乱土
A2	砂質埴土	10YR2/3	黒褐色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ2~5mm粒、塊状3%	粘性中	締り中	
A3	砂質埴土	10YR2/2	黒褐色土	砂質埴土	10YR3/3	暗褐色土	φ1~3mm粒状1%	粘性中	締り中	
A4	砂質埴土	7.5YR3/3	暗褐色土	砂質埴土	5YR3/4	暗赤褐色土	φ2~6mm粒、塊状3%	粘性中	締り中	焼土・土器舎
A5	砂質埴土	7.5YR3/4	暗褐色土	砂質埴土	7.5YR4/6	褐色土	φ2~6mm粒、塊状3%	粘性中	締り中	

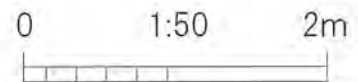
P1

a1	砂質埴土	10YR2/3	黒褐色土	砂質埴土	10YR3/4	暗褐色土	φ1~3mm粒状2%	粘性中	締り中	
----	------	---------	------	------	---------	------	------------	-----	-----	--

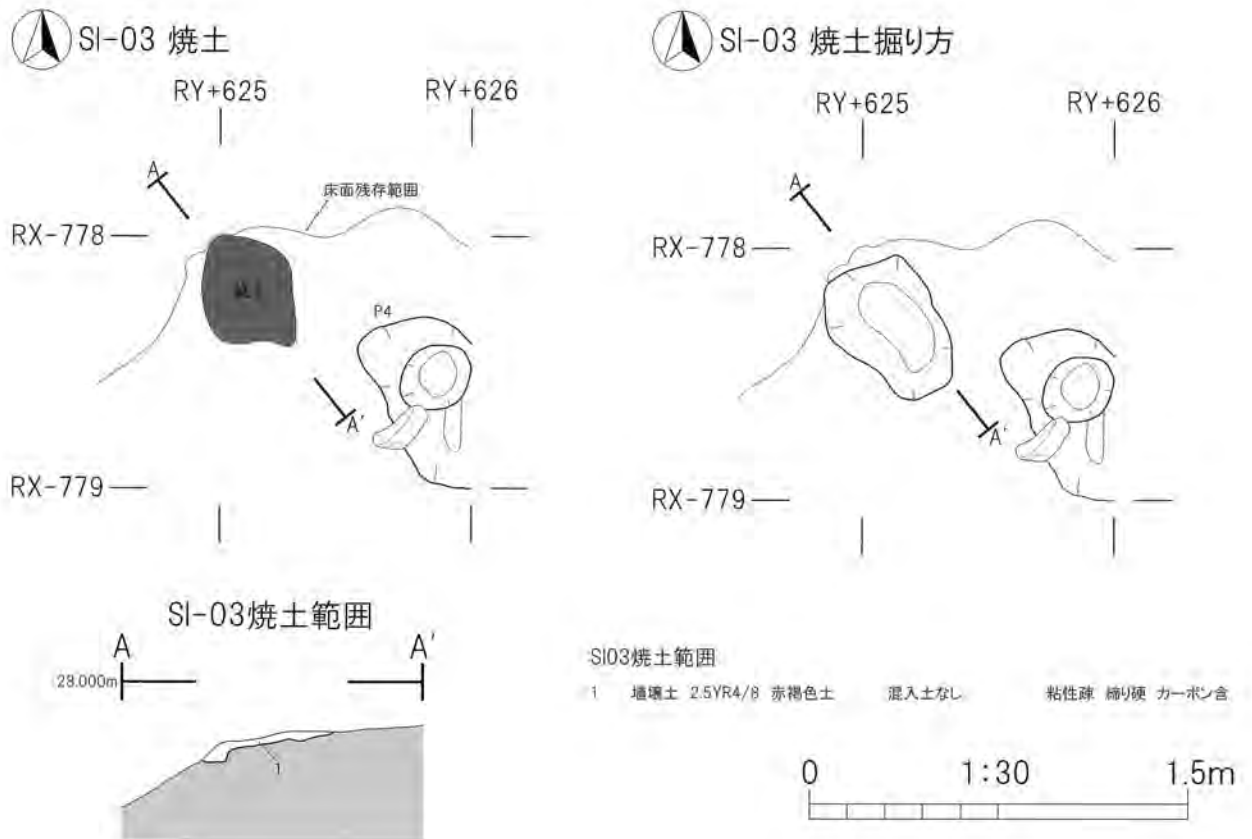
第9図 1号竪穴住居跡平面図・断面図



SI-02(A-A')(B-B')						
A1	シルト質埴土	10YR2/2	黒褐色土	シルト質埴土	10YR3/3 暗褐色土 φ2~6mm粒状2%	粘性中 締り中
A2	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	シルト質埴土	10YR2/3 黒褐色土 φ10~40mm塊状5%	粘性中 締り中
A3	シルト質埴土	7.5YR2/2	黒褐色土	シルト質埴土	10YR3/4 暗褐色土 φ1~3mm粒状1%	粘性中 締り中
A4	シルト質埴土	10YR2/3	黒褐色土	砂礫土	10YR4/6 褐色土 φ2~10mm粒状20%	粘性中 締り中
B1	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	シルト質埴土	10YR3/4 暗褐色土 φ2~5mm粒状3%	粘性中 締り中
B2	シルト質埴土	10YR2/2	黒褐色土	砂礫土	10YR4/6 褐色土 φ2~5mm粒状2%	粘性中 締り中
C1	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	砂質埴土	10YR4/4 褐色土 φ1~3mm粒状1%	粘性中 締り中
C2	砂質埴土	10YR5/6	黄褐色土	シルト質埴土	10YR3/3 暗褐色土 φ5~30mm粒・塊状10%	粘性中 締り中(地山由来)
C3	シルト質埴土	10YR2/3	黒褐色土	砂質埴土	10YR4/6 褐色土 φ2~10mm粒状2%	粘性中 締り中
C4	砂質埴土	10YR2/2	黒褐色土	砂礫土	10YR4/4 褐色土 φ2~5mm粒状2%	粘性中 締り中
C5	砂質埴土	10YR3/4	暗褐色土	砂質埴土	10YR1.7/1 黒色土 φ10~40mm塊状3%	粘性中 締り中
D1	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	砂質埴土	10YR2/3 黒褐色土 φ5~50mm塊状40%	粘性中 締り中
E1	シルト質埴土	10YR4/4	褐色土	シルト質埴土	10YR4/4 褐色土 φ10~40mm粒・斑状30%	粘性中 締り中
P2・P3						
a1	軽埴土	10YR2/2	黒褐色土	軽埴土	10YR3/4 暗褐色土 φ1~3mm粒状2%	粘性中 締り中
a2	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	軽埴土	10YR3/3 暗褐色土 φ2~8mm粒状3%	粘性中 締り中
a3	軽埴土	2.5Y2/1	黒色土	砂質埴土	10YR4/4 砂質埴土 φ2~5mm粒状1%	粘性中 締り中
a4	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	シルト質埴土	10YR2/3 黒褐色土 φ1~5mm粒状2%	粘性中 締り中
P4						
a5	軽埴土	10YR3/3	暗褐色土	砂質埴土	10YR4/4 褐色土 φ1~3mm粒状1%	粘性中 締り中
a6	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	シルト質埴土	10YR2/2 黒褐色土 φ1~3mm粒状2%	粘性中 締り中
a7	シルト質埴土	10YR3/2	黒褐色土	砂質埴土	7.5YR4/3 褐色土 φ3~10mm粒状2%	粘性中 締り中
SK-14						
a1	埴礫土	10YR4/2	灰黄褐色土	埴礫土	10YR6/6 明黄褐色土 φ1~3cm粒状10%	粘性密 締り中



第11図 2号竪穴住居跡平面図・断面図



第14図 3号竪穴住居跡焼土平面図・断面図

平面形は長方形で、規模は長軸3 m85cm、残存する部分の短軸2 m80cmを測り、検出面から床面までの深さは52cmである。カマドから煙出しピットまでは1 m10cmを測り、煙出しピットの直径は43cm、底面までの深さは44cmを測り、底面は緩やかに傾斜しながら壁は直に立ち上がる。埋土は13層に分層され、自然堆積である。床面は平坦で、中央部では張床され、中央やや南寄りとかマドの右袖付近と北東部にピットが検出されている。カマドは袖石の抜き取り痕が確認されたが、袖石及び天井の石は確認されなかった。

出土遺物は土師器である(第33図3、4)。3は甕の底部で、底径は9.2cmを測る。ナデ調整を施している。4は甕の口縁部から胴部上半部の破片である。口縁部はヨコナデ、胴部はナデにより整形している。いずれも平安時代の所産と考えられる。

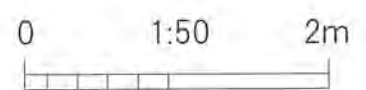
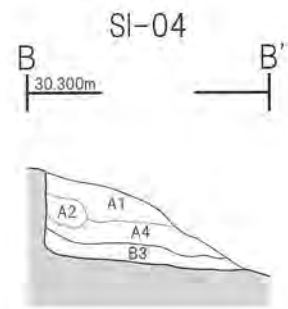
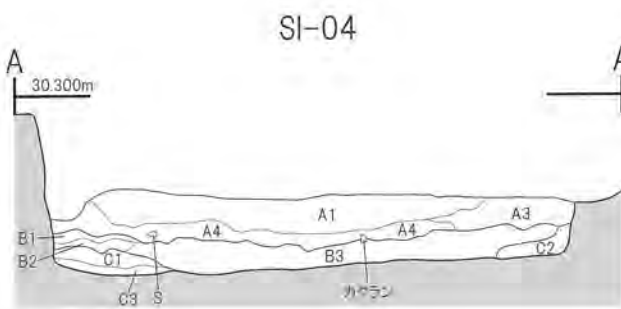
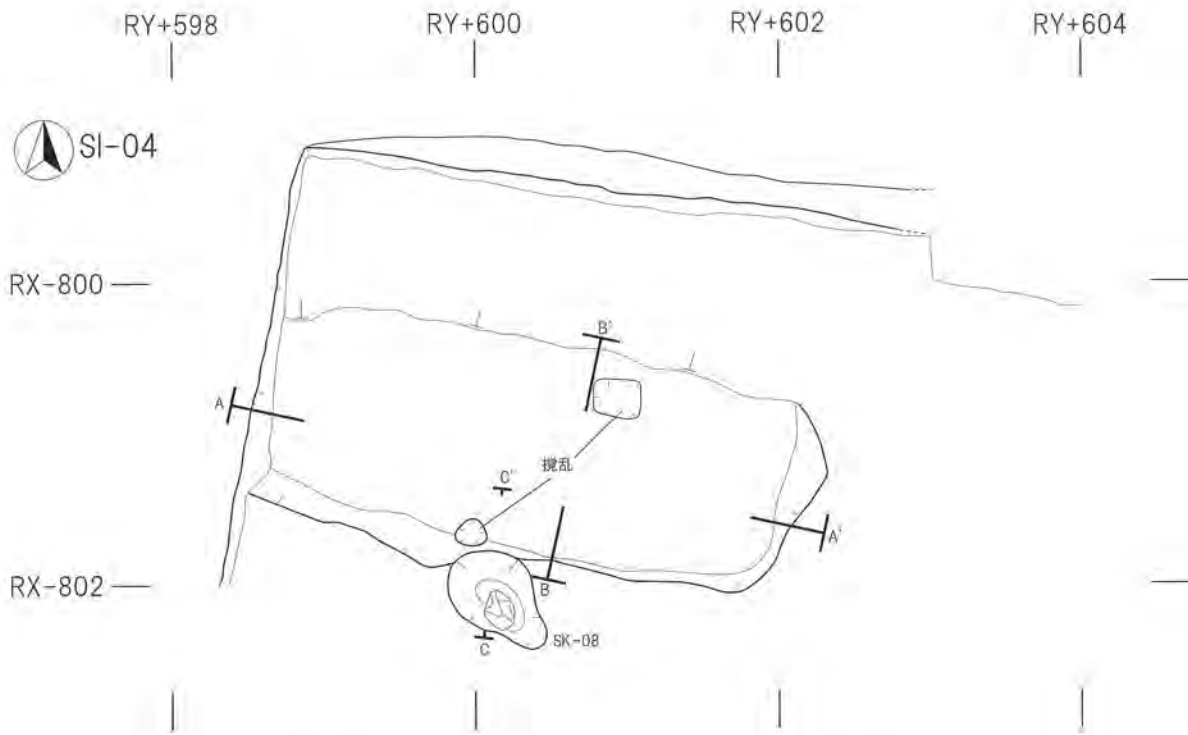
帰属時期は出土遺物から平安時代である。

3号竪穴住居跡(SI-03 第13図、第14図、第21図5、6)

B区北部で検出された。調査前から平坦に造成されていたため、残存状況が悪く、検出面から21cmの深さで床面に到達し、西部は50cmほど掘削されていたため確認されなかった。残存する規模は長軸4 m15cm、短軸2 m95cmを測る。カマドは確認されなかったが、北西部で焼土を確認した。焼土は不整形に確認され、長軸53cm、短軸38cmを測り、厚さは5cmを測る。埋土は7層に分層される。北部は張床(C層)により床面を平坦にしている。ピットは6基検出されたが、深いものは確認されなかった。

出土遺物は土師器である(第33図5、6)。5は甕の口縁部破片で、ナデ整形を施している。6は甕の底部で、底径は9.1cmを測る。ナデ調整を施している。いずれも平安時代の所産と考えられる。この他、北部にて炭化材が集中して出土した。

帰属時期は出土遺物から平安時代である。



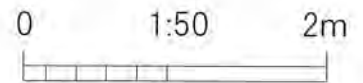
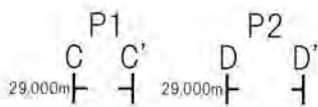
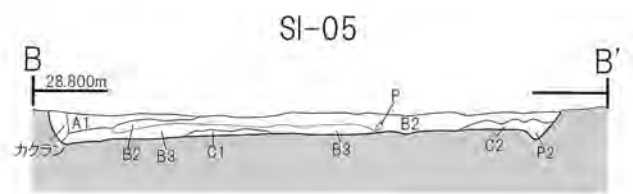
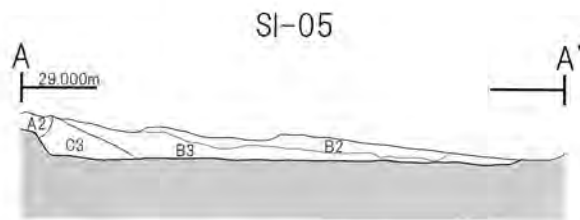
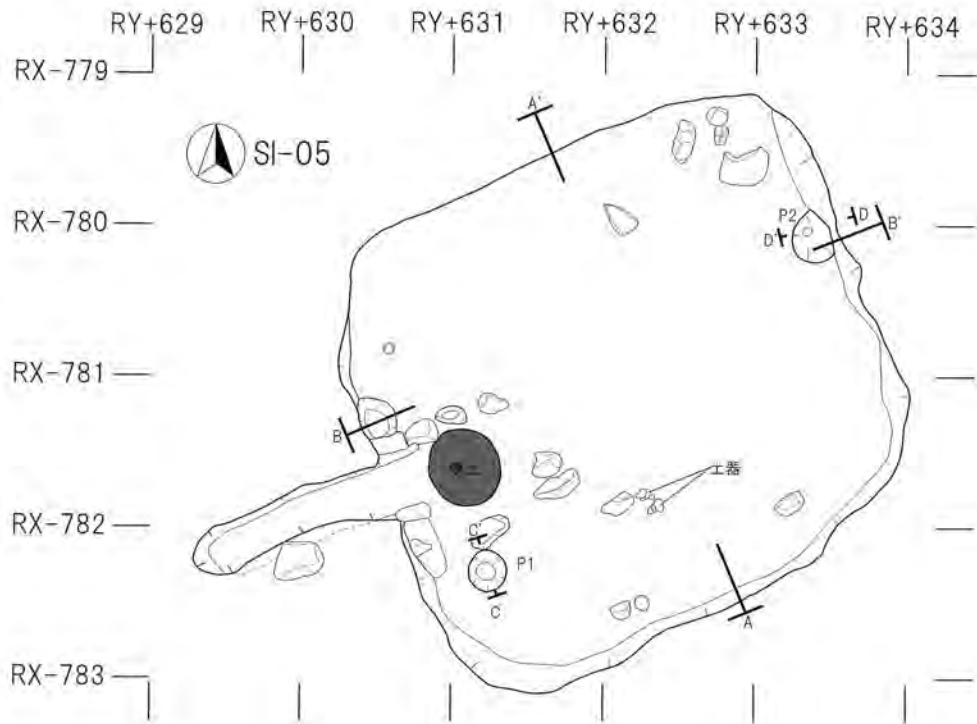
SI-04(A-A')(B-B')

A1	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	シルト質埴壤土	10YR4/4	褐色土	φ2~5mm3%	粘性中	締り中	
A2	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	砂質埴土	5YR4/8	赤褐色土	φ15mm塊状2%	粘性中	締り中	
A3	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	シルト質埴壤土	10YR4/4	褐色土	φ5~25mm粒状3%	粘性中	締り中	
A4	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	砂質埴土	10YR5/6	黄褐色土	φ3~20mm粒状7%	粘性中	締り中	
B1	シルト質埴土	2.5Y3/2	黒褐色土	シルト質埴土	10YR4/4	褐色土	φ2~8mm粒状2%	粘性中	締り中	
B2	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	シルト質埴土	10YR2/3	黒褐色土	φ2~8mm粒状1%	粘性中	締り中	
B3	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	シルト質埴土	10YR4/6	褐色土	φ5~20mm粒状3%	粘性中	締り中	焼土塊含
C1	シルト質埴土	10YR2/3	黒褐色土	シルト質埴土	10YR4/6	褐色土	φ2~20mm粒状5%	粘性中	締り中	
C2	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	シルト質埴土	10YR4/6	褐色土	φ5~10mm粒状3%	粘性中	締り中	
C3	シルト質埴土	10YR4/4	褐色土	シルト質埴土	10YR3/4	暗褐色土	φ3~10mm粒状10%	粘性密	締り中	粘床の可能性あり

SK-08

a1	埴壤土	10YR2/3	黒褐色土	埴壤土	10YR4/4	褐色土	φ3~10mm粒状2%	粘性中	締り中
a2	埴壤土	10YR2/2	黒褐色土	埴壤土	10YR4/4	褐色土	φ1~3mm粒状1%	粘性中	締り中
a3	埴壤土	10YR4/3	にぶい黄褐色土	埴壤土	10YR2/3	黒褐色土	φ1~5mm粒状3%	粘性中	締り中

第15図 4号竪穴住居跡平面図・断面図



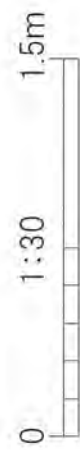
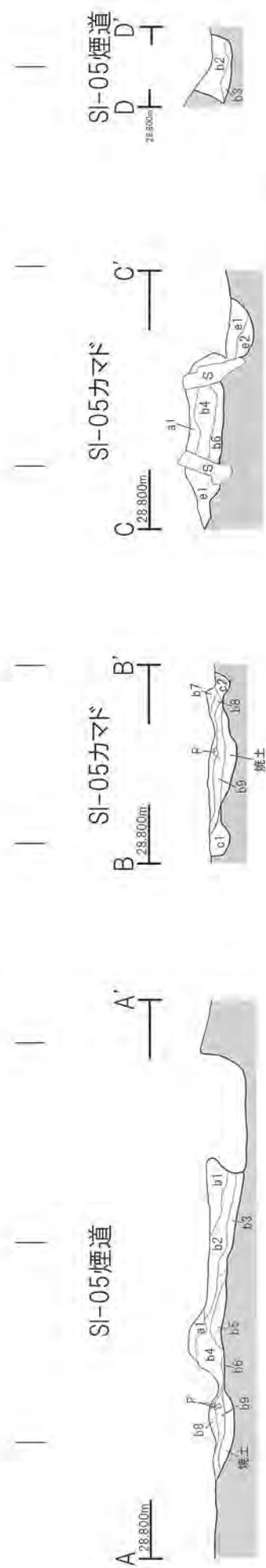
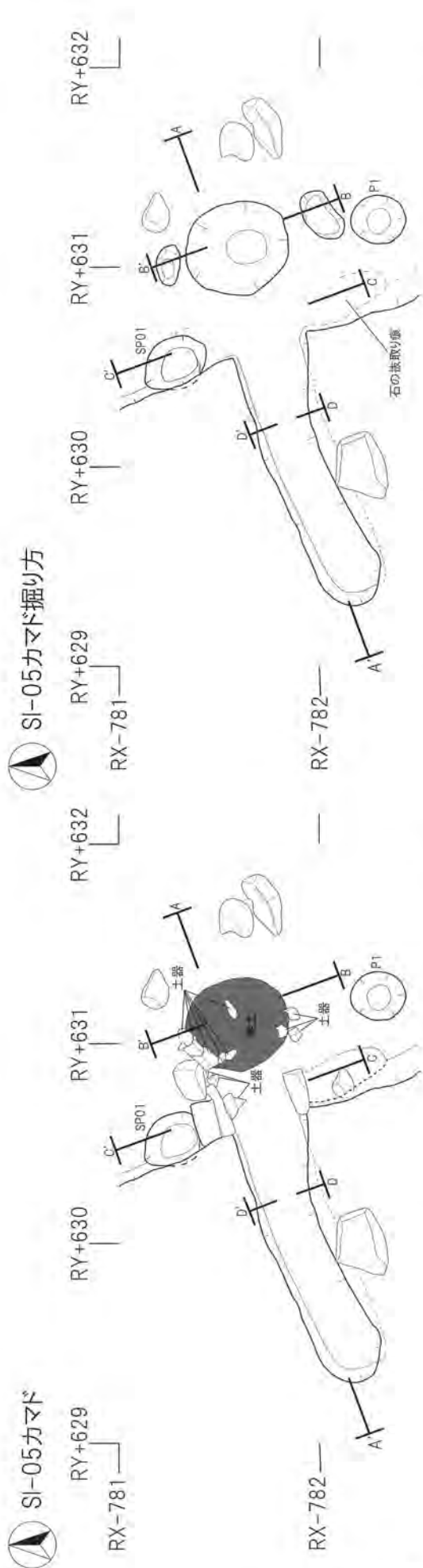
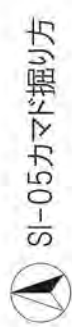
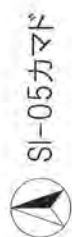
SI05

A1	砂壤土	7.5YR5/6	明褐色土	砂壤土	10YR2/3	黒褐色土	φ 5~20mm粒状10%	粘性中	締り中
A2	砂壤土	10YR3/4	暗褐色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ 3~20mm斑状10%	粘性中	締り中
B1	砂壤土	10YR4/6	褐色土	砂壤土	10YR2/3	黒褐色土	φ 3~50mm塊状40%	粘性中	締り中
B2	砂壤土	10YR2/2	黒褐色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ 3~10mm粒状2%	粘性中	締り中
B3	砂壤土	10YR2/1	黒色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ 3~8mm粒状1%	粘性中	締り中
C1	砂壤土	10YR2/3	黒褐色土	砂壤土	10YR4/4	褐色土	φ 1~3mm粒状1%	粘性中	締り中
C2	砂壤土	10YR2/3	黒褐色土	砂壤土	10YR4/6	褐色土	φ 5~50mm層状3%	粘性中	締り中
C3	砂壤土	10YR4/4	褐色土	砂壤土	10YR2/3	黒褐色土	φ 5~80mm斑状30%	粘性中	締り中

P1

観察なし

第16図 5号竪穴住居跡平面図・断面図

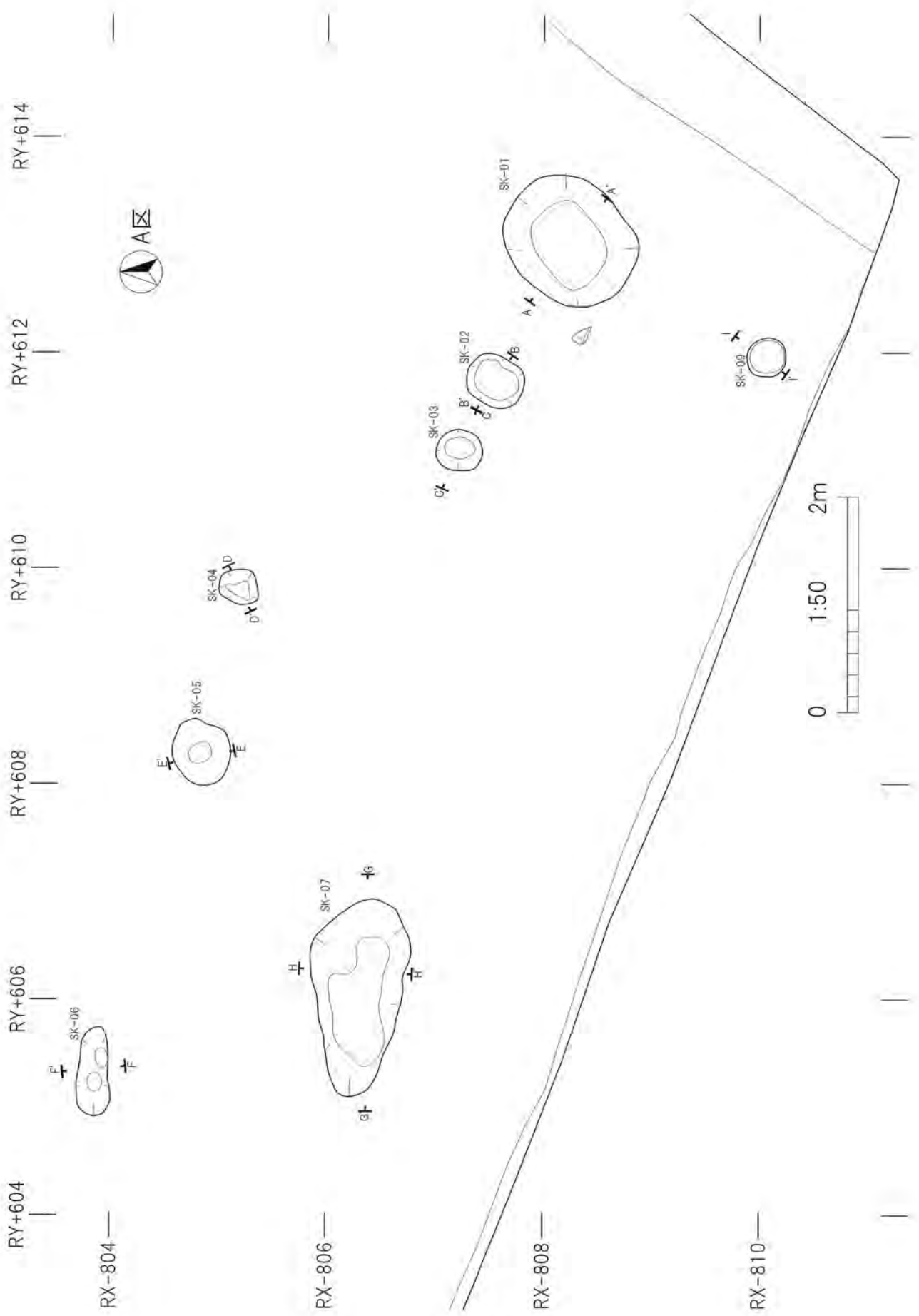


SI05 カマド～煙道

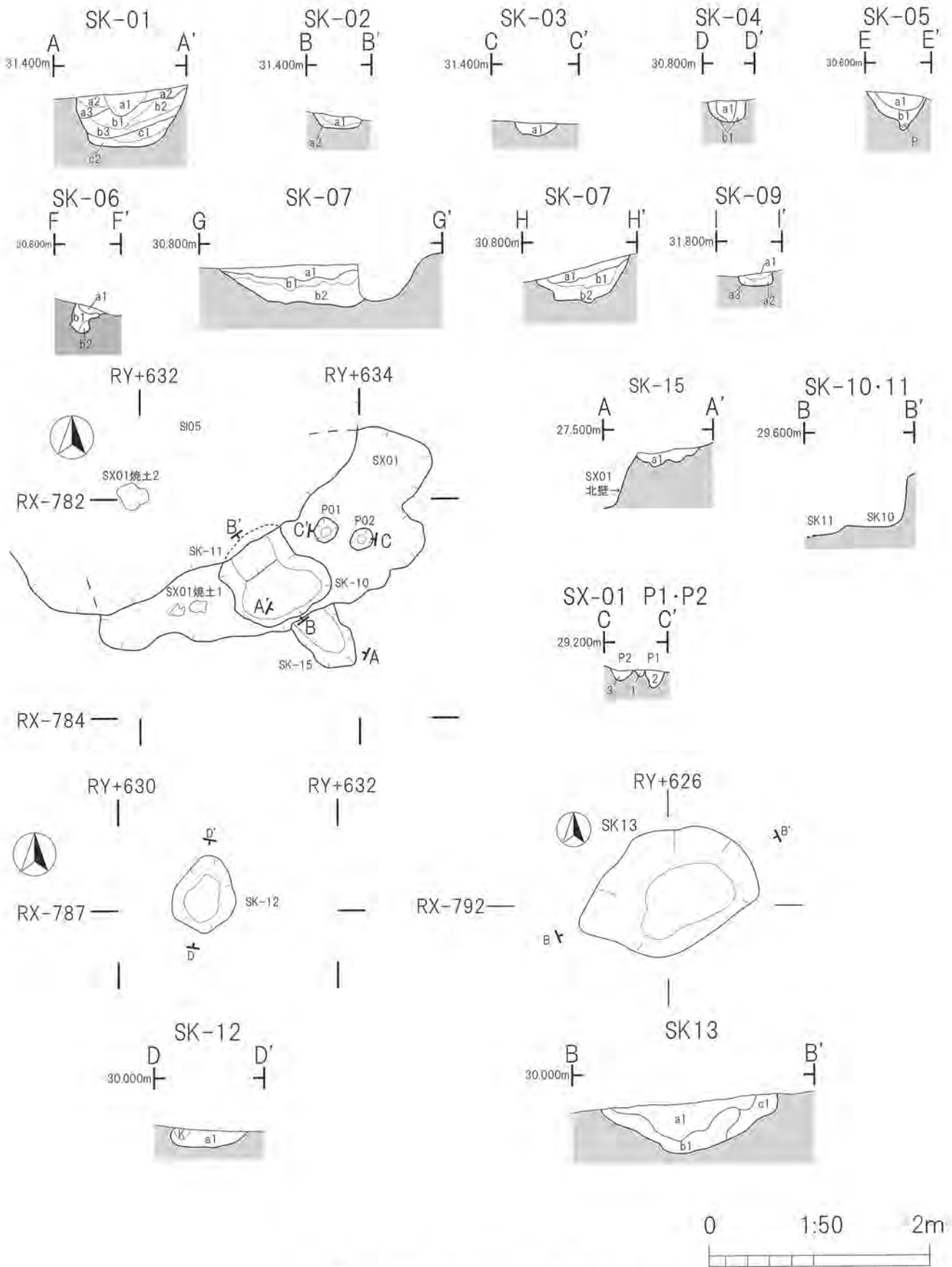
a1	砂礫土 10YR3/3 暗褐色土	砂礫土 10YR4/4 褐色土	粘性中 練り中
b1	砂礫土 10YR2/3 暗褐色土	砂礫土 10YR4/5 褐色土	粘性中 練り中
b2	砂礫土 10YR3/4 暗褐色土	砂礫土 10YR4/6 褐色土	粘性中 練り中
b3	砂礫土 10YR2/3 暗褐色土	砂礫土 7.5YR4/6 褐色土	粘性中 練り中
b4	砂礫土 10YR4/6 褐色土	砂礫土 10YR3/3 暗褐色土	粘性中 練り中
b5	砂礫土 10YR3/4 暗褐色土	砂礫土 7.5YR4/4 褐色土	粘性中 練り中
b6	砂礫土 7.5YR2/2 暗褐色土	砂礫土 10YR4/6 褐色土	粘性中 練り中
b7	砂礫土 7.5YR4/4 褐色土	砂礫土 10YR2/3 暗褐色土	粘性中 練り中
b8	砂礫土 7.5YR3/4 暗褐色土	砂礫土 5YR3/6 暗褐色土	粘性中 練り中
b9	砂礫土 5YR3/4 暗褐色土	砂礫土 5YR4/8 暗褐色土	粘性中 練り中
c1	砂礫土 7.5YR4/4 褐色土	砂礫土 5YR4/6 赤褐色土	粘性中 練り中
c2	砂礫土 7.5YR2/3 暗褐色土	砂礫土 5YR4/6 赤褐色土	粘性中 練り中
e1	砂礫土 10YR2/3 暗褐色土	砂礫土 10YR4/6 褐色土	粘性中 練り中
e2	砂礫土 10YR4/4 褐色土	砂礫土 10YR2/3 暗褐色土	粘性中 練り中

φ2～5mm粒状1%
φ5～40mm塊状3%
φ2～8mm粒状3%
φ2～10mm粒状3%
φ3～15mm粒状3%
φ5～15mm粒状2%
φ5～30mm粒状3%
φ3～20mm粒状10%
φ2～5mm粒状3%
φ3～15mm粒状5%
φ2～8mm粒状3%
φ2～5mm粒状2%
φ3～8mm粒状3%

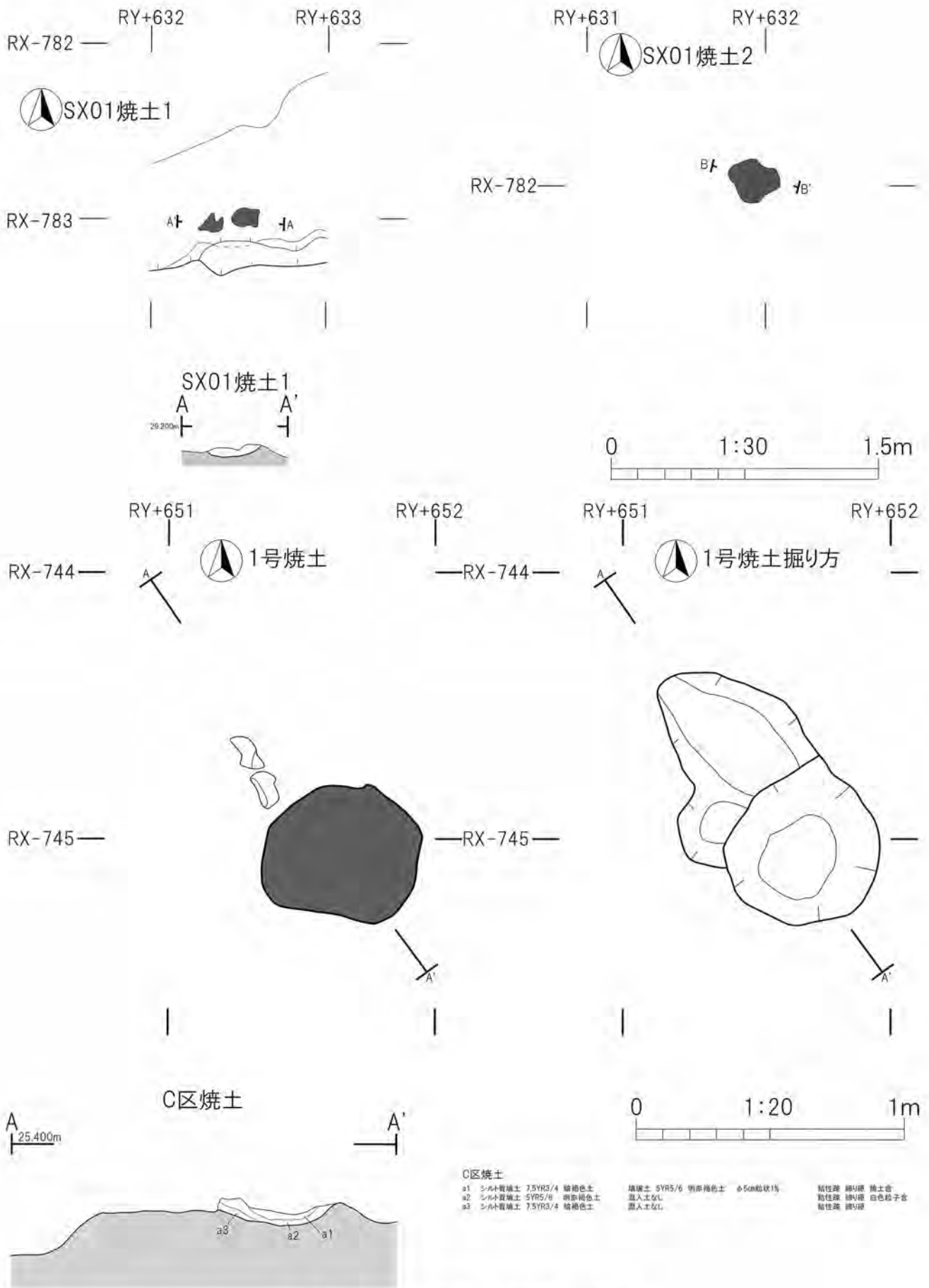
第17図 5号竪穴住居跡カマド平面図・断面図



第18图 A区土坑平面图



第19图 A区·B区土坑平面图·断面图

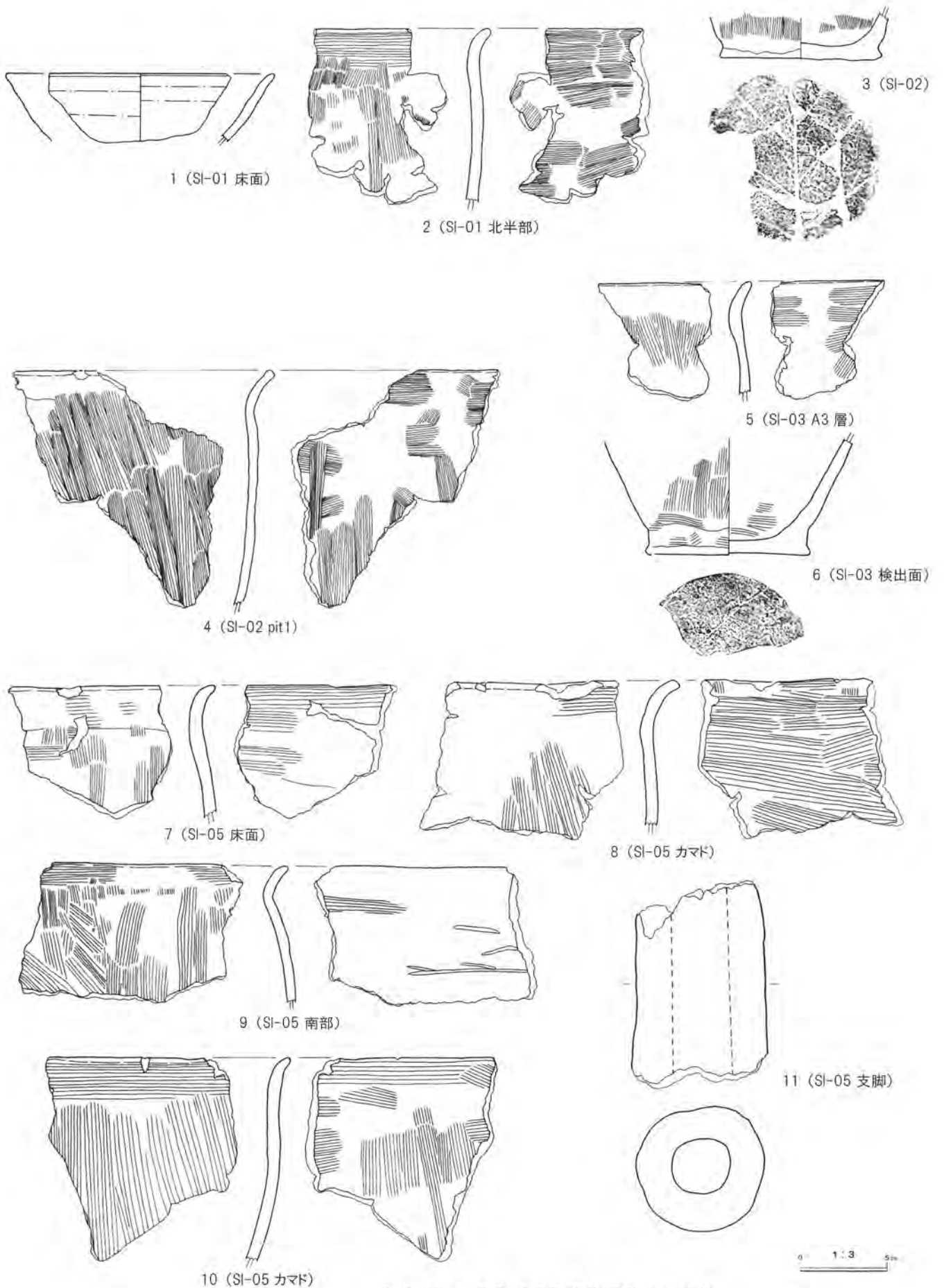


第20図 SX-01・C区焼土平面図・断面図

SK-01				SK-07			
a1 埴埴土 10YR2/2 黒褐色土	埴埴土 10YR2/3 暗褐色土	φ1~3mm粒状2%	粘性中 粘り中	a1 埴埴土 10YR3/3 暗褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ5mm~1mm粒状7%	粘性強 粘り中
a2 埴埴土 10YR2/3 黒褐色土	埴埴土 10YR2/4 暗褐色土	φ2~10mm粒状5%	粘性中 粘り中	b1 埴埴土 10YR3/2 黒褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ3~5mm粒状1%	粘性強 粘り強
a3 埴埴土 7.5YR2/2 黒褐色土	埴埴土 10YR4/6 褐色土	φ5~25mm粒状10%	粘性中 粘り中	b2 埴埴土 10YR3/1 黒褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ5mm~1cm粒状10%	粘性強 粘り強
b1 埴埴土 10YR3/3 暗褐色土	砂質埴埴土 10YR5/6 黄褐色土	φ1~3mm粒状1%	粘性中 粘り中	SK-09			
b2 埴埴土 10YR3/4 暗褐色土	砂質埴埴土 10YR5/6 黄褐色土	φ3~50mm粒、塊状5%	粘性中 粘り中	a1 埴埴土 10YR4/4 褐色土	埴埴土 10YR2/3 暗褐色土	φ2~5mm粒状2%	粘性中 粘り中
b3 埴埴土 7.5YR2/4 暗褐色土	砂質埴埴土 10YR5/6 黄褐色土	φ3~30mm粒、塊状3%	粘性中 粘り中	a2 埴埴土 10YR4/5 褐色土	埴埴土 10YR4/3 に少し黄褐色土	φ3~2mm粒状1%	粘性中 粘り中
c1 埴埴土 10YR2/3 黒褐色土	砂質埴埴土 10YR4/4 褐色土	φ2~20mm粒状3%	粘性中 粘り中	a3 埴埴土 10YR4/3 に少し黄褐色土	埴埴土 10YR4/4 褐色土	φ3~2mm粒状2%	粘性中 粘り中
c2 シルト質埴埴土 10YR4/4 褐色土	埴埴土 10YR3/3 暗褐色土	φ3~15mm粒、塊状10%	粘性中 粘り中	SK-10			
SK-02				SK-11			
a1 埴埴土 10YR2/4 暗褐色土	埴埴土 10YR5/6 黄褐色土	φ3mm粒状3%	粘性強 粘り中	観察なし			
b1 埴埴土 10YR4/4 褐色土	埴埴土 10YR3/2 暗褐色土	φ1cm粒状5%	粘性強 粘り中	観察なし			
SK-03				SK-12			
a1 埴埴土 10YR3/4 暗褐色土	埴埴土 10YR3/2 暗褐色土	φ1cm粒状7%	粘性強 硬質中	a1 埴埴土 10YR2/3 暗褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ1~3mm粒状3%	粘性中 粘り強
	埴埴土 10YR5/6 黄褐色土	φ2mm~1cm粒状5%	粘性強 硬質中	観察なし			
SK-04				SK-13			
a1 埴埴土 10YR2/3 黒褐色土	埴埴土 10YR3/2 暗褐色土	φ1cm粒状3%	粘性中 粘り強	a1 埴埴土 10YR2/2 黒褐色土	埴埴土 10YR3/3 暗褐色土	φ2cm粒状5%	粘性中 粘り強
a2 埴埴土 10YR2/4 暗褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ5mm粒状2%、粒状	粘性中 粘り強	b1 埴埴土 10YR3/2 暗褐色土	埴埴土 10YR5/6 明黄褐色土	φ2cm粒状5%	粘性中 粘り強
a3 埴埴土 10YR4/4 褐色土	埴埴土 10YR3/2 暗褐色土	φ10mm粒状1%	粘性中 粘り強	c1 埴埴土 10YR4/3 に少し黄褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ5mm粒状5%	粘性強 粘り強
SK-05				SK-15			
a1 埴埴土 10YR2/3 黒褐色土	埴埴土 10YR4/6 褐色土	φ3mm粒状1%	粘性強 粘り中	a1 埴埴土 10YR2/2 黒褐色土	埴埴土 10YR4/6 褐色土	φ1cm粒状1%	粘性強 粘り強
b1 埴埴土 10YR3/1 黒褐色土	埴埴土 10YR4/6 褐色土	φ1cm粒状3%	粘性強 粘り中	埴埴土 5YR3/6 暗黄褐色土	埴埴土 5YR3/6 暗黄褐色土	φ1cm粒状1%	粘性中 粘り中
SK-06				SX-O1 P1・P2			
a1 埴埴土 10YR2/2 黒褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ3mm~1cm粒状5%	粘性強 粘り中	1 埴埴土 10YR2/3 黒褐色土	砂埴土 10YR4/4 褐色土	φ1~3mm粒状3%	粘性中 粘り中
b1 埴埴土 10YR2/3 暗褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ2mm~1cm粒状3%	粘性強 粘り強	2 埴埴土 10YR2/2 黒褐色土	砂埴土 10YR4/4 褐色土	φ1~3mm粒状1%	粘性中 粘り中
a2 埴埴土 10YR4/3 に少し黄褐色土	埴埴土 10YR6/6 明黄褐色土	φ3cm粒状5%	粘性強 粘り強	3 埴埴土 10YR3/3 暗褐色土	砂埴土 10YR4/6 褐色土	φ2~5mm粒状10%	粘性中 粘り中

遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
SK-01	A	125	106	53
SK-02	A	55	46	12
SK-03	A	48	42	21
SK-04	A	35	30	19
SK-05	A	65	50	35
SK-06	A	82	25	24
SK-07	A	188	90	39
SK-08	A	65	40	21
SK-09	A	40	35	11
SK-10	B	86	40	16
SK-11	B	70	26	18
SK-12	B	70	58	16
SK-13	B	165	11	51
SK-14	A	140	65	16
SK-15	B	60	40	16
SX01-P1	B	22	20	18
SX01-P2	B	20	18	10
SX01焼土1	B	35	10	10
SX01焼土2	B	30	20	2
1号焼土	C	60	56	6

第1表 土坑、焼土遺構、性格不明遺構計測表(1)



第21図 1~3号、5号竪穴住居跡出土遺物

4号竪穴住居跡 (SI-04 第15図、第22図)

A区西壁付近で検出された。基本土層VI層を掘り込んで構築している。北部は既に1mほど掘削されていたため確認されず、西側は調査区外へ続いている。そのため平面形は不明であるが、南東隅がコーナーを有することから長方形と考えられる。残存する規模長軸3m77cm、短軸は1m40cmを測り、検出面から床面までの深さは51cmである。埋土は10層に分層される。床面は概ね平坦である。床面から柱穴や炉跡は検出されなかった。

出土遺物は縄文土器である(第22図)。縄文土器は口唇部に連続した押圧を施し、器面に縄文を施している。時期については縄文時代前期と考えられる。

帰属時期は出土遺物から縄文時代前期である。

5号竪穴住居跡 (SI-05 第16図、第17図、第21図7～11)

B区南東部で検出された。基本土層VI層を掘り込んで構築している。SX-01に重複し、SX-01よりも古い。カマドを付帯する住居跡で、西壁にはカマドと煙道が確認された。平面形は長方形で、規模は長軸3m45cm、短軸3m25cmを測り、検出面から床面までの深さは20cmである。煙道の規模は長軸2m、短軸33cm、底面までの深さは35cmを測り、底面は緩やかに傾斜しながら壁は直に立ち上がる。埋土は8層に大別され、自然堆積である。床面は平坦で柱穴はカマド付近と東壁際に2基検出された。

出土遺物は土師器と羽口である(第33図7～11)。7～10は甕の口縁部から胴部上半部の破片である。ナデ整形を施している。11は羽口である。カマド中央部で出土し、支脚として利用されたものである。帰属時期は出土遺物から平安時代である。

・土坑 (SK-01～15 第18図、第19図)

いずれも小規模の土坑である。規模については第1表の観察表でまとめている。帰属時期については不明である。

・性格不明の遺構 (SX-01 第20図)

B区南東部、SI-05と重複して検出された。平面形は不整形で規模は長軸3m35cm、短軸80cmを測り、深さは30cmである。床面に焼土2基とピット2基を伴う。時期は不明であるが、SI-05よりも新しい所産であり平安時代と考えられる。

・土坑、遺構外出土遺物 (第23図～第25図)

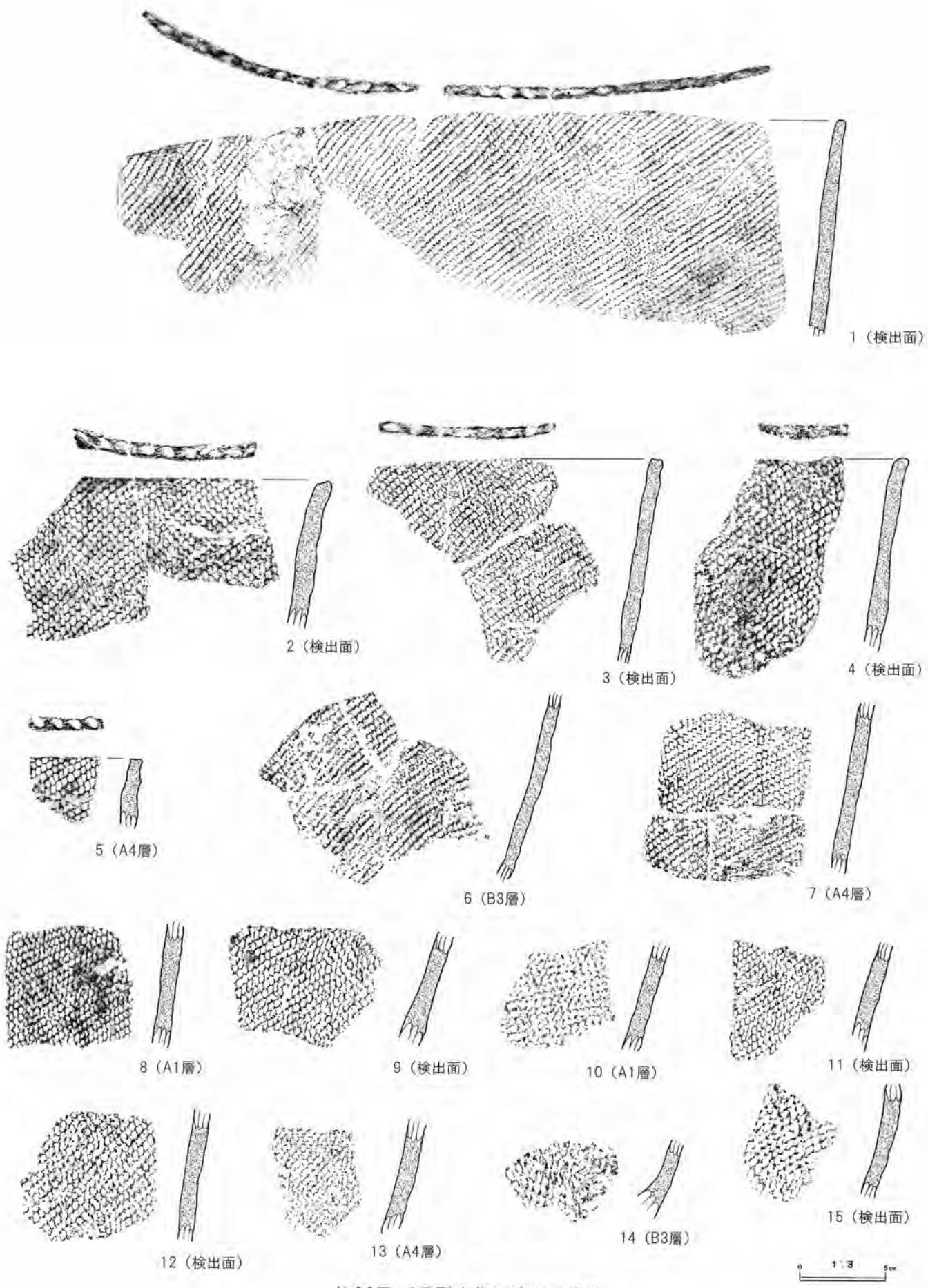
縄文土器、石器、土師器が出土している。なお図示しなかったが、A区では流れ込みによる鉄滓が出土している。

縄文土器 (第23図1～27)

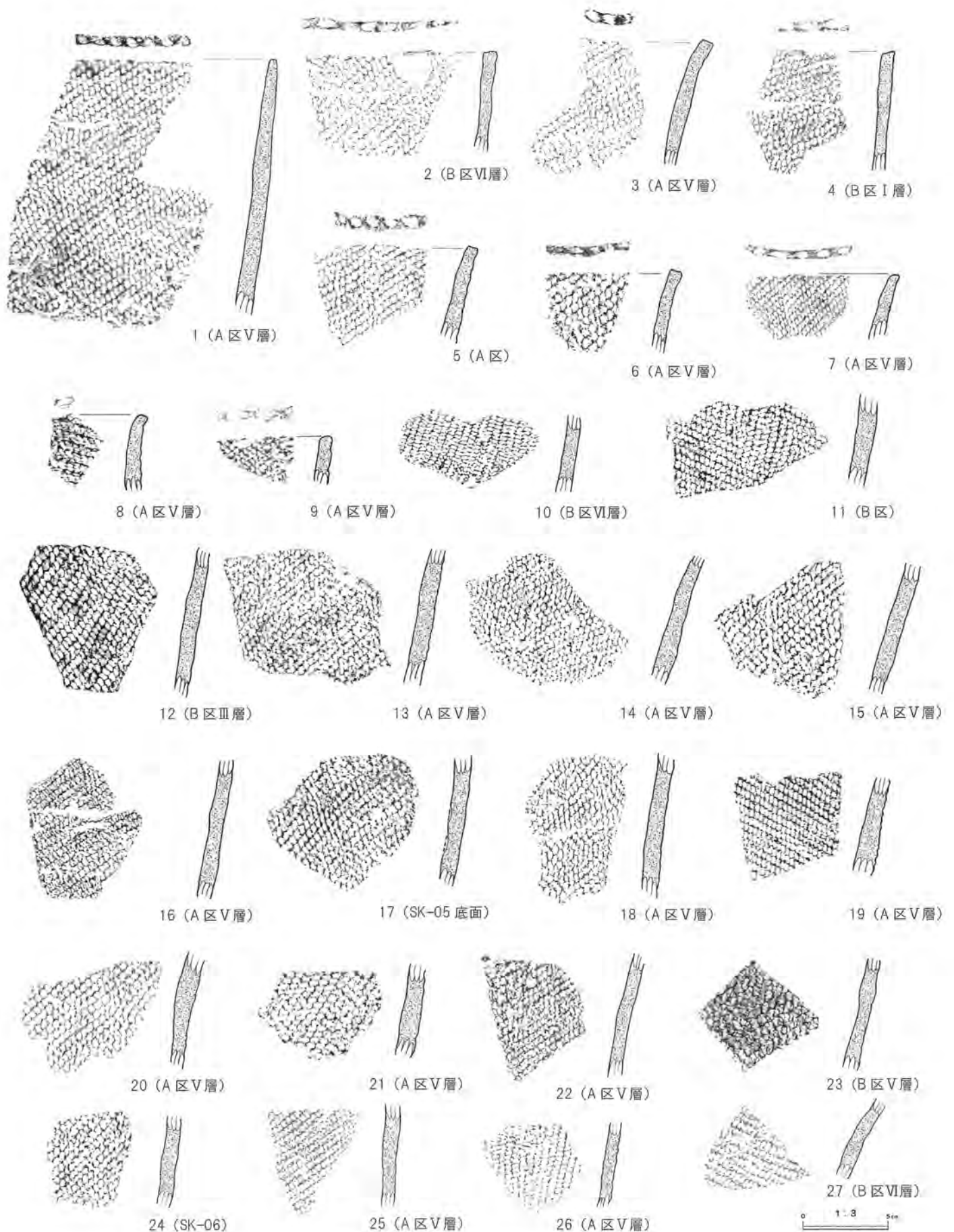
すべて胎土に繊維を含み縄文を施すものである。縄文時代前期前葉の土器である。

石器 (第24図、第25図)

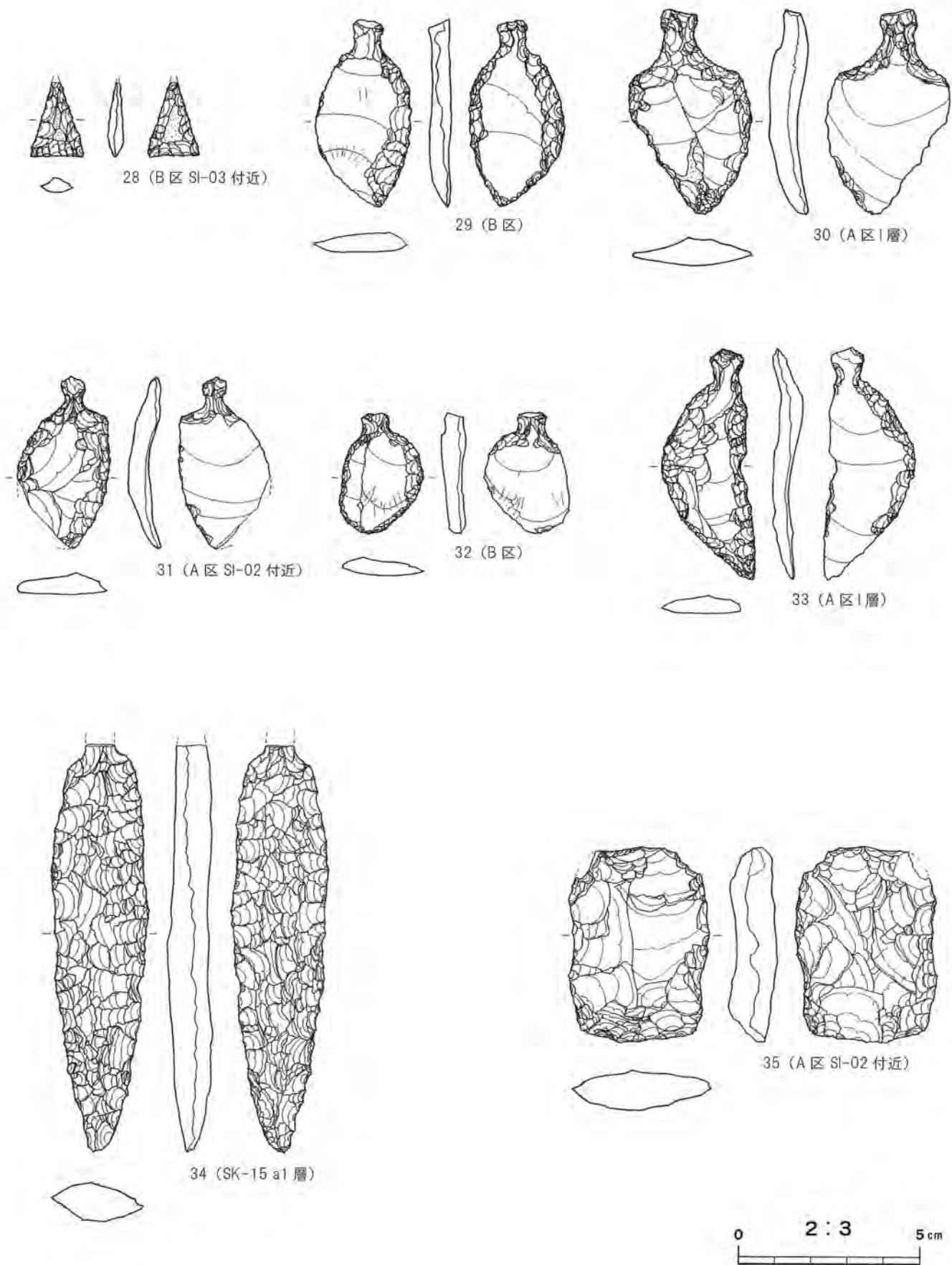
28は石鏃である。29～34は石匙である。35は削器である。36～38は磨製石斧である。39、40は磨石である。41は磨石と凹み石を兼ねたものである。



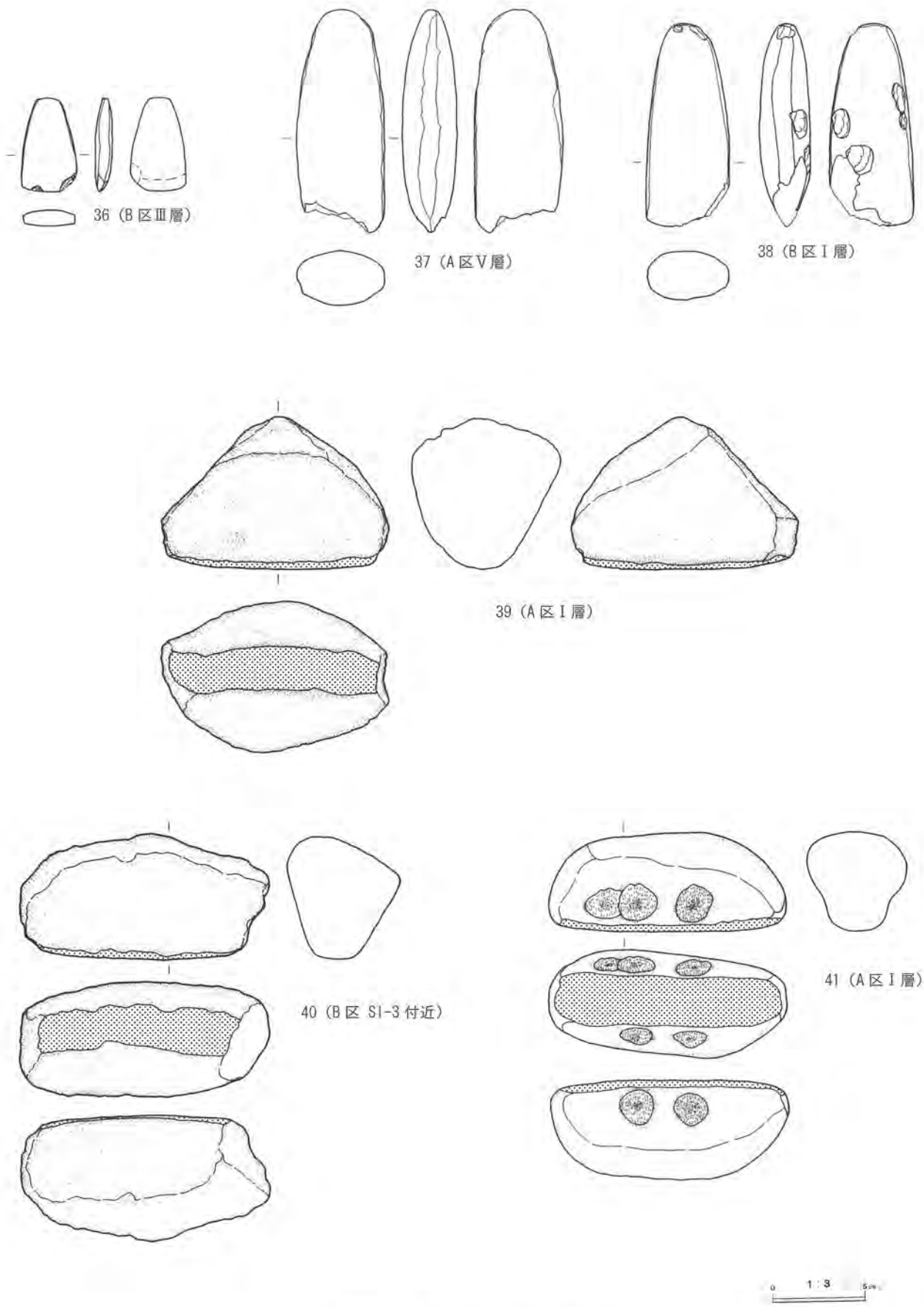
第22図 4号竪穴住居跡出土遺物



第23图 土坑·遺構外出土遺物(1)



第24図 土坑・遺構外出土遺物(2)



第25図 土坑・遺構外出土遺物(3)

(3) 調査のまとめ

発掘調査により縄文時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡の他、時期不明の土坑、焼土遺構などを検出し、縄文土器、石器、土師器、羽口、鉄滓などが出土した。以下、既に報告された調査を踏まえまとめとする。

縄文時代では1棟の竪穴住居跡を検出した。出土遺物から縄文前期前葉と考えられる。同じ赤前Ⅳ八枚田遺跡内では同時期の竪穴住居跡が1棟検出されている。検出された当住居跡は残存状況が悪く部分的な調査であるため全容は不明であるが、コーナーを有することから平面形は凡そ長方形と考えられる。出土した土器は口唇部を押圧し、文様帯をもたず全面に縄文を施している。縄文は単節縄文、組縄縄文に分かれ、ループ文はなく、結束、非結束含めた羽状縄文は少ない。市内では重茂半島の南東沿岸部に位置する千鷲遺跡で当該期の住居跡が多数検出されており、本例と類似する竪穴住居跡の形態と土器が報告されている。

古代（平安時代）では竪穴住居跡4棟を検出した。このうちカマドを有するSI-01、02、05の3棟はSI-01と02の間が約20m、SI-02と05の間が約25m、標高が29m～30mのレベルにあり、位置関係では一定の間隔、標高で構築されていることが分かる。また、出土遺物の土師器についても甕の形態かつ整形がいずれも近似していることから、これら3棟はほぼ同時期による所産と考えられる。同じ遺跡内では平安時代とされる竪穴住居跡が当調査区より南部の地点で12棟検出されているが、地形上は当調査区と連続した緩斜面上にあることから、周辺にも当該期の集落が緩斜面に広がっているものと考えられる。SI-05の南西に近接するSI-03は残存状況が悪くカマドが確認されていないため、他のカマドを有する住居跡に含まれるかは結論を見出せていないが、赤前Ⅲ遺跡を含め周辺には鉄生産関連の工房が確認されていることから工房跡の可能性もある。これはSI-03と同様に焼土とピットを付帯するSI-05に重複するSX-01についても同様である。

東日本大震災大津波による甚大な被害から7年、赤前地区では住まいの再建や道路整備に伴う発掘調査が実施された。特に赤前小学校を取り巻く赤前Ⅲ遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡の範囲内では発掘調査が増加し、検出された縄文時代と平安時代の竪穴住居跡の数が急増した。また、赤前Ⅲ遺跡では復興調査により中近世の掘立柱建物跡や近世の墓壙が確認され、赤前Ⅳ八枚田遺跡では平成4年の発掘調査により弥生時代と奈良時代の遺構も確認されていることから、隣接し合う両遺跡は縄文時代以降の拠点集落であったことが想定される。今後は蓄積されていく赤前Ⅲ遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡の調査成果を基に、各調査を越えた総合的な考察が行われることにより赤前地区における歴史の復元が構築されていくことを期待したい。

参考文献

- 宮古市教育委員会 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
宮古市教育委員会 1989 『千鷲遺跡—昭和62年度発掘調査報告書—』
宮古市教育委員会 1999 『赤前Ⅲ・赤前八枚田遺跡・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係発掘調査報告書—』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2016 『赤前Ⅲ遺跡』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017 『赤前Ⅲ遺跡』
岩手県立博物館 1982 『岩手の土器—県内出土資料の集成—』

写 真 图 版



写真1 赤前地区航空写真(西より)



写真2 調査区 A・B 区航空写真



写真3 A区近景(1)



写真4 A区近景(2)



写真5 B区近景



写真6 C区近景



写真7 1号竖穴住居跡完掘



写真8 1号竖穴住居跡セクション



写真9 1号竖穴住居跡カマド完掘



写真10 1号竖穴住居跡カマド検出状況



写真11 1号竖穴住居跡遺物出土状況



写真12 2号竪穴住居跡完掘



写真13 2号竪穴住居跡セクション



写真14 2号竪穴住居跡煙道完掘



写真15 2号竪穴住居跡煙道セクション

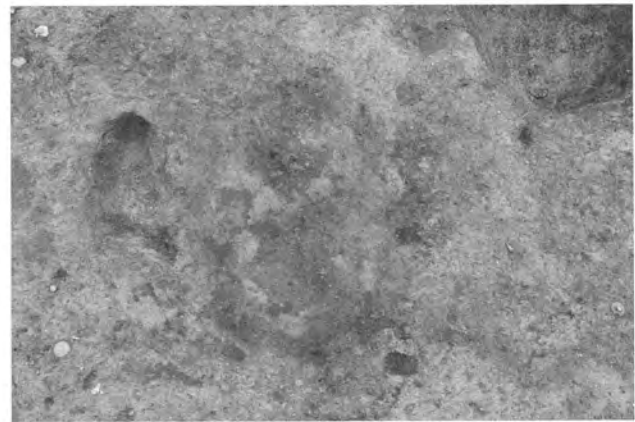


写真16 2号竪穴住居跡カマド完掘



写真17 3号竪穴住居跡完掘



写真18 3号竪穴住居跡セクション



写真19 3号竪穴住居跡焼土検出状況(1)



写真20 3号竪穴住居跡焼土検出状況(2)



写真21 3号竪穴住居跡炭化材出土状況



写真22 4号竖穴住居跡完掘



写真23 4号竖穴住居跡セクション



写真24 5号竪穴住居跡完掘(1)

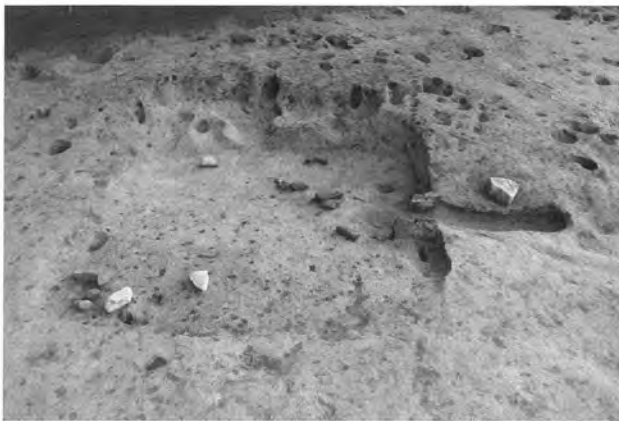


写真25 5号竪穴住居跡完掘(2)



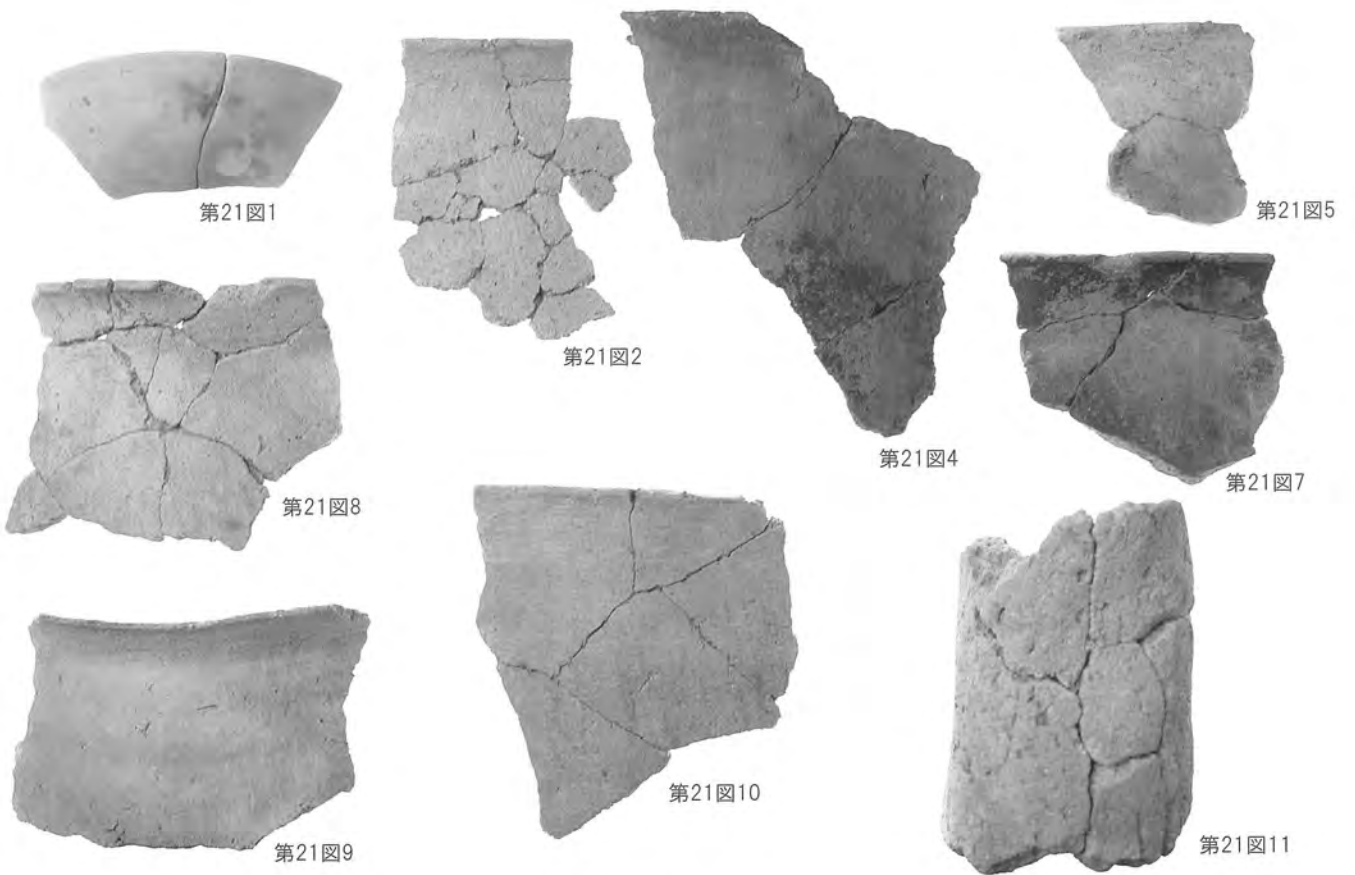
写真26 5号竪穴住居跡カマドセクション(1)



写真27 5号竪穴住居跡カマドセクション(2)



写真28 5号竪穴住居跡カマド完掘



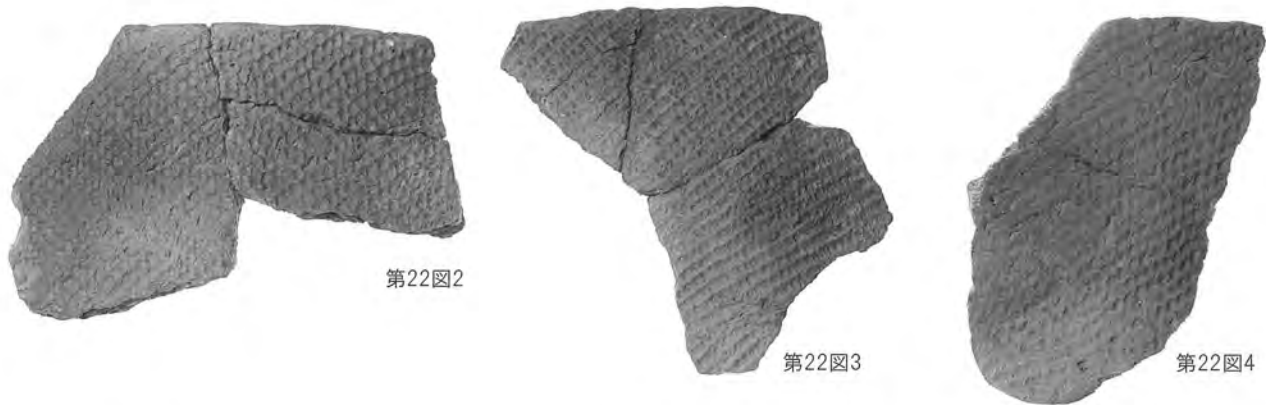
出土遺物(1)



第22図1

出土遺物(2)





第22图2

第22图3

第22图4



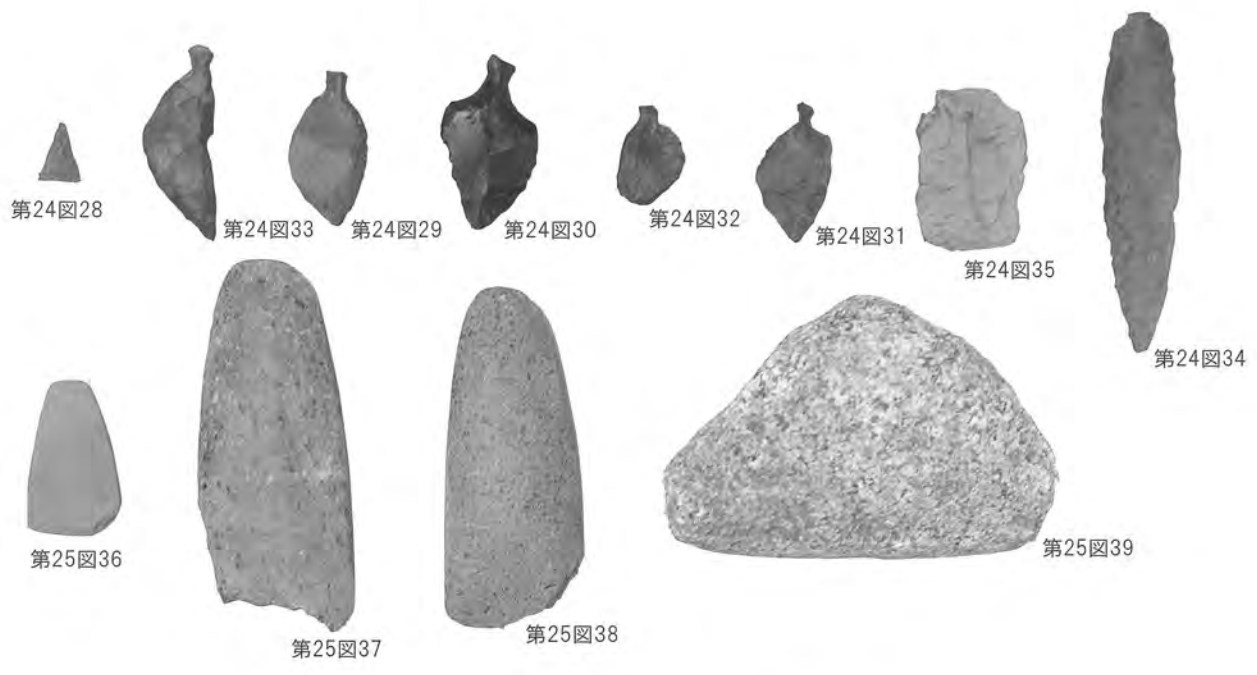
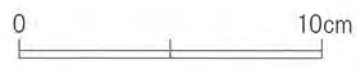
第22图6

第22图7

第22图8

第22图9

出土遺物(3)



第24图28

第24图33

第24图29

第24图30

第24图32

第24图31

第24图35

第24图34

第25图36

第25图37

第25图38

第25图39

出土遺物(4)



第25图40



第25图41

報告書抄録

ふりがな	あかまえ3いせき、あかまえ4はちまいたいせき							
書名	赤前Ⅲ遺跡、赤前Ⅳ八枚田遺跡							
副書名	市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	99							
編著者名	江口 邦泰							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課							
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1							
発行年月日	平成30年3月30日(2018年)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あかまえ3いせき 赤前Ⅲ遺跡	いわてけん 岩手県 みやこしあかまえ 宮古市赤前	3202	LG54-1025	39° 44' 31"	141° 58' 53"	270901～ 271204	653 m ²	市道赤前 上下線道 路整備事 業
あかまえ4はちまい 赤前Ⅳ八枚田 遺跡			LG54-1008					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
赤前Ⅲ遺跡 赤前Ⅳ遺跡	集落跡	縄文、古代	竪穴住居跡5棟 土坑15基 焼土遺構1基 性格不明遺構1基	縄文土器 土師器 石器	赤前Ⅳ八枚田遺跡内にて 縄文時代の竪穴住居跡と 平安時代の竪穴住居跡を 検出した。			

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	年度	番号	年度		
1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	60	2003	『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書3—』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	61	2003	『早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査—市内遺跡発掘調査報告書4—』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	62	2003	『下在家Ⅰ遺跡—平成14年度発掘調査報告書—』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	63	2004	『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡 —市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	64	2005	『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	65	2006	『高浜Ⅵ地神遺跡 —高浜Ⅳ丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査 —市内遺跡発掘調査報告書5—』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	67	2006	『八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡 —市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』
9	1986	『宮古市遺跡分布図—昭和60年度版—』	68	2006	『木戸井内Ⅳ遺跡 —宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	69	2006	『管ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書6—』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』	70	2007	『山口館跡 —市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
12	1987	『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』	71	2007	『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係 発掘調査報告書—』
13	1987	『崎山遺跡群Ⅰ—昭和60年度発掘調査概報—』	72	2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査 —市内遺跡発掘調査報告書7—』
14	1988	『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群（堀合館） —昭和62年度発掘調査報告書—』	73	2007	『弘川館跡第2次調査 —宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』
15	1988	『崎山遺跡群Ⅱ—昭和62年度発掘調査概報—』	74	2008	『荷竹日向Ⅳ遺跡 —市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』
16	1989	『千鶴遺跡—昭和62年度発掘調査報告書—』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
17	1989	『トロノ木Ⅰ遺跡—第1～7次発掘調査報告書—』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報（青角器類）』
18	1989	『崎山遺跡群Ⅲ—昭和63年度発掘調査概報—』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
19	1989	『高根遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
20	1989	『狐崎Ⅱ遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	79	2012	『重茂館遺跡群—第2次発掘調査報告書—』
21	1989	『崎山トロノ木Ⅳ遺跡—昭和63年度調査報告書—』	80	2014	『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡 —市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
22	1990	『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』	81	2014	『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡 —市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
23	1990	『崎山遺跡群Ⅳ—平成元年度発掘調査概報—』	82	2014	『赤畑東遺跡—山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書—』
24	1990	『磯鶏館山遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	83	2015	『千徳城遺跡群—一条工務店建設工事関係発掘調査報告書—』
25	1990	『嶽ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』	84	2015	『黒森町Ⅰ遺跡—宗教法人「先天大道—貫道日本總天壇」 研修施設建設工事関係発掘調査報告書—』
26	1991	『崎山遺跡群Ⅴ—平成2年度発掘調査概報—』	85	2015	『菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡 —市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
27	1991	『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群—平成元年・2年度発掘調査報告書—』	86	2016	『千徳城遺跡群 —アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
28	1990	『熊野町遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	87	2016	『重茂館遺跡群—重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書—（第3次調査）』
29	1991	『弘川Ⅰ遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	88	2016	『重茂館遺跡群—重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書—（第4次調査）』
30	1992	『金浜Ⅰ遺跡（昭和58年度）・大付遺跡（平成2年度） 発掘調査報告書』	89	2016	『重茂館遺跡群—重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書—（第5次調査）』
31	1992	『重茂館遺跡群—第1次調査報告書—』	90	2016	『下大谷地Ⅵ 大谷地Ⅰ遺跡—市道下大谷地花輪線道路改良事業 関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
32	1992	『黒森町Ⅰ遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	91	2016	『千鶴Ⅲ遺跡—千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係 発掘調査報告書—』
33	1992	『高根遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』	92	2016	『金浜館跡—市道磯鶏金浜線（金浜工区）道路整備事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書—』
34	1992	『鯉沢遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	93	2016	『乙部Ⅱ遺跡—田老地区防災集団移転促進事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書—』
35	1992	『大付遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』	94	2017	『高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡—災害公営住宅整備事業（高浜）に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書—』
36	1992	『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡 —農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』	95	2017	『刈屋清水野、下刈屋Ⅰ遺跡—市道線道路改良事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書—』
37	1992	『崎山遺跡群Ⅵ—平成3年度発掘調査概報—』	96	2017	『沼里館跡—都市防災総合推進事業（公園整備）関係発掘調査 報告書—』
38	1993	『萩沢Ⅱ遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』	97	2017	『日の出町Ⅱ遺跡—災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書—』
39	1993	『早稲橋Ⅱ遺跡—第1次・第2次発掘調査報告書—』	98	2017	『拜殿峠遺跡—市道北部環状線道路改良事業関係埋蔵文化財 発掘調査報告書—』
40	1993	『崎山遺跡群Ⅶ—平成4年度発掘調査概報—』	99	2017	『赤前Ⅲ遺跡・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・ 小堀内Ⅲ遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財 発掘調査報告書—』
41	1994	『崎山遺跡群Ⅷ—平成5年度発掘調査概報—』			
42	1995	『赤前Ⅰ牛子沢遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』			
43	1995	『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』			
44	1995	『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』			
45	1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡 —市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
46	1995	『花原市遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』			
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』			
48	1996	『大付遺跡—平成5年・6年度発掘調査報告書—』			
49	1997	『花原市遺跡—平成8年度発掘調査報告書—』			
50	1997	『白石遺跡—第6次発掘調査報告書—』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館 —北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』			
52	1998	『藤畑遺跡—平成9年度発掘調査報告書—』			
53	1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・ 小堀内Ⅲ遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財 発掘調査報告書—』			
54	1999	『千鶴Ⅳ遺跡—水産課千鶴地区漁漁漁村総合整備事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
55	1999	『崎山貝塚—第12次・13次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡—特別高圧送電線 ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
57	2002	『山口館跡 —北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
58	2002	『小沢Ⅱ大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書2—』			
59	2003	『大又沢Ⅵ遺跡 —東北電力宮古へりポート移設工事関係発掘調査報告書—』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 99

あかまえ 3 いせき あかまえ 4 はちまい た いせき
赤前Ⅲ遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡

—市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷・発行 平成 30 年 3 月 30 日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会

〒028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1

TEL 0193-72-2175

FAX 0193-64-0212

編集 岩手県宮古市教育委員会 文化課

〒027-0097 岩手県宮古市崎山 1-16-1

TEL 0193-65-7527

FAX 0193-65-7508

印刷 株式会社文化印刷

〒027-0037 岩手県宮古市松山 5-13-6

TEL 0193-62-4578

FAX 0193-64-0333

